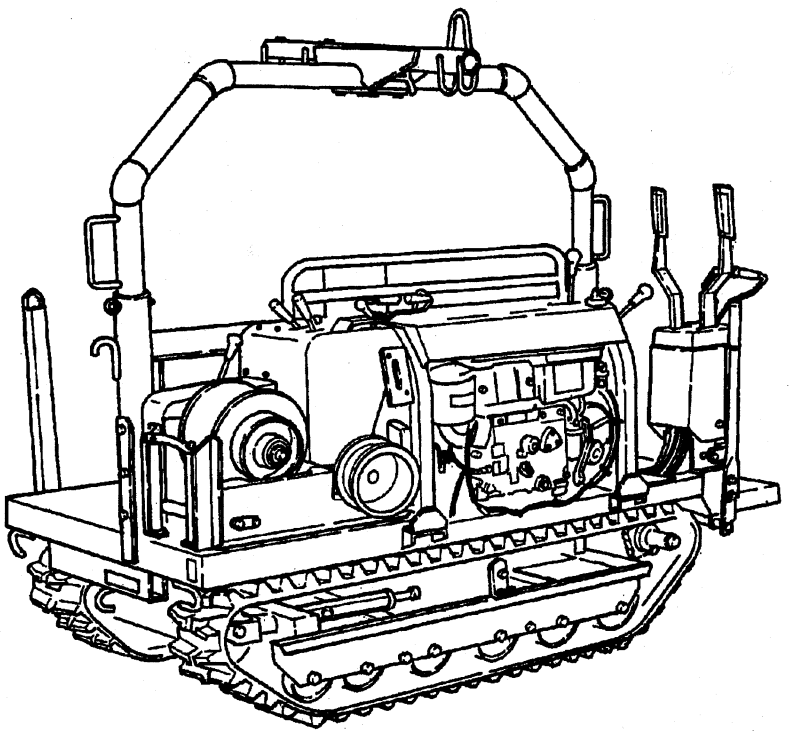
取扱説明書

林内作業車

マウントホース

SC10W2
SCD10W2



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に隣接して保存してください。

もくじ

安全に作業をするために 2

サービスと保証について 25

形式・仕様について 26

本製品の使用目的について 26

方向について 26

1 各部のなまえ 27

安全銘板の貼り付け位置 29

2 運転と作業のしかた 33

1. 運転前の点検……33
2. 燃料の点検・給油のしかた……35
3. ラジエタへの給水のしかた……36
4. 各部オイルの点検・交換のしかた……36
5. エンジンの始動・停止のしかた……38
6. 発進・旋回・変速・停止のしかた……43
7. 各部の操作のしかた……47
8. 坂道での運転のしかた……56
9. トラックへの積込み・積降ろしのしかた……57

3 作業後の手入れについて 58

1. 作業後の手入れ……58
2. 長期間使用しない場合の手入れ……58

4 手入れと点検・調整 61

1. 定期点検一覧表……62
2. 各部注油・グリースアップのしかた……64
3. ラジエタへの給水のしかた……65
4. 各部オイルの点検・交換のしかた……66
5. エアクリーナの掃除・交換のしかた……67
6. 燃料こし器の掃除のしかた……68
7. オイルフィルタの洗浄のしかた……69
8. エア(空気)抜きのしかた……69
9. 燃料タンクの水抜き洗浄のしかた……70
10. 燃料パイプ・電気配線の点検のしかた……70
11. 点火プラグの点検のしかた……71
12. ヒューズの点検・交換のしかた……71
13. バッテリの整備のしかた……72
14. クローラの張り調整のしかた……73
15. サイドクラッチレバーの点検のしかた……73
16. 駐車ブレーキレバーの点検のしかた……73
17. 走行クラッチレバーの点検のしかた……74
18. ウインチクラッチレバーの点検……74
19. ウインチブレーキレバーの点検……75
20. ウインチ・エンドレスドラム切換えレバーの点検……75
21. ドラム駆動チェンの張り点検……75
22. 締付けをするところ……76

5 不調診断 77

用語解説 79

仕様 80

その他 主要消耗部品、付属品……81

配線図 83

林内作業車の定期自主点検のためのチェックリスト 86

安全に作業をするために

本機は林内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。

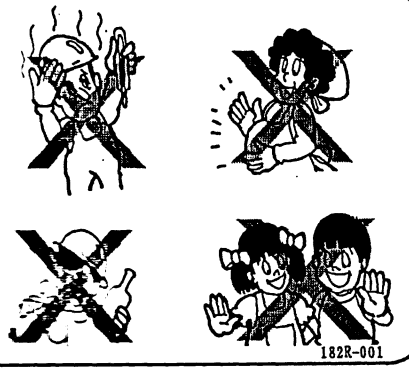
ここに記載されている注意項目を守らないと
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

※ご購入された製品によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

●一般的な注意項目

⚠警告 こんなときは運転しない

- ●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
- ●酒をのんだとき
- ●妊娠しているとき
- ●１８才未満の人
- ●運転が未熟な人

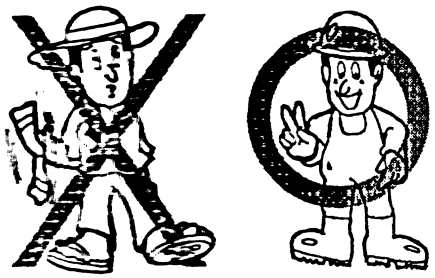


⚠警告 作業に適した服装

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、防護具などを付け、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。

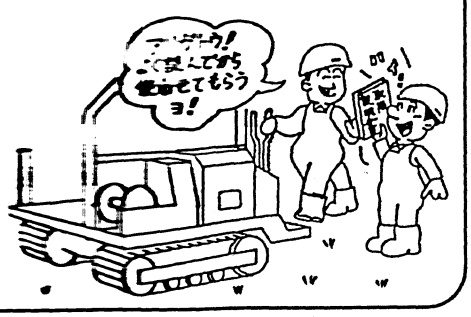


⚠注意 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

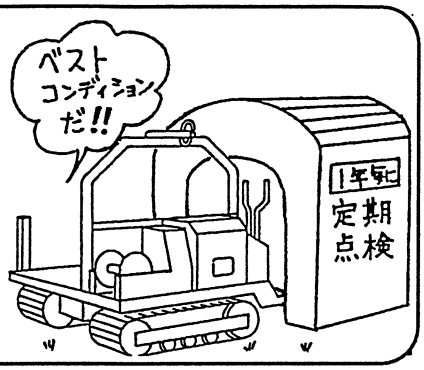


⚠注意 定期点検、整備を受ける

1年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に、燃料パイプは2年毎に交換し電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

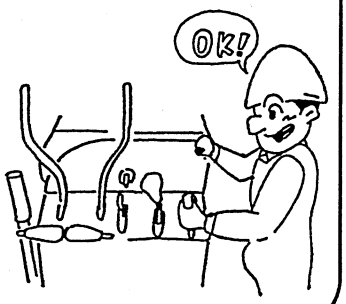


⚠注意 点検、整備をおこなう

使用の前と後には必ず機械の点検、整備をしてください。特に、走行クラッチ・ブレーキ・サイドクラッチレバー・主変速レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。

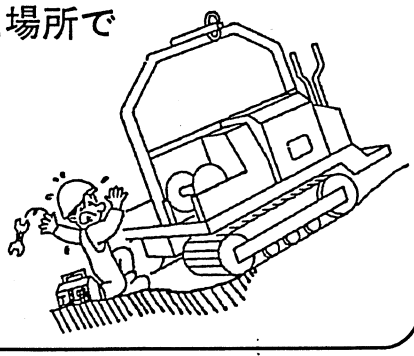


⚠警告 点検、整備は平坦な安定した場所で

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、クローラには歯止めをして点検、整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

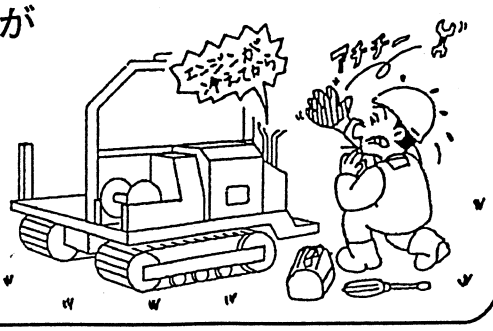


⚠注意 点検、整備は高温部分が充分冷えてから

マフラーやエンジンなどの高温部分が充分に冷えてから点検、整備をしてください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこしたり、火傷をするおそれがあります。

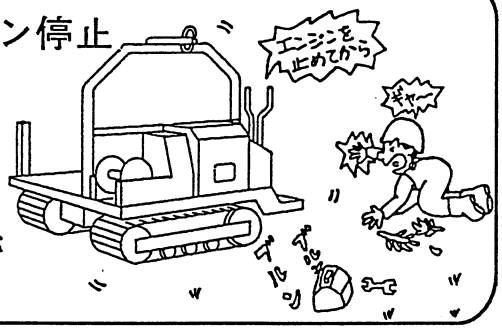


⚠注意　点検、整備中はエンジン停止

点検、整備、修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

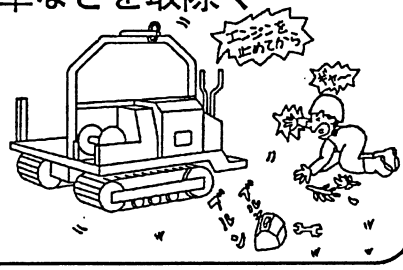
機械の下敷きや巻込まれてけがをするおそれがあります。



⚠注意　部品を交換したり、巻付いた草などを取除くときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻込まれて重傷を負うおそれがあります。



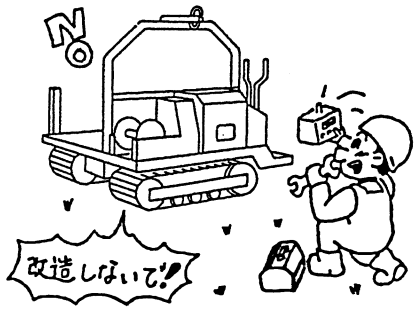
⚠警告　機械の改造禁止

純正部品以外の部品を取付けないでください。

改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。



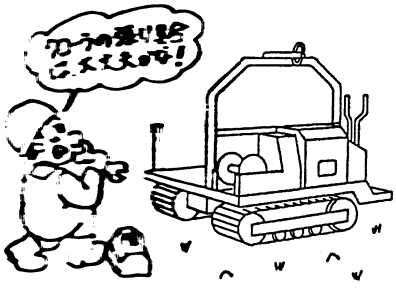
⚠警告　クローラは必ず点検

クローラの張りを調整してください。

クローラに亀裂がないか確認してください。

【守らないと】

クローラが外れたり、切れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



⚠警告 ラジエタが熱いときはキャップを開けない
(水冷ディーゼルエンジン仕様)

ラジエタが加熱しているときには、絶対に
ラジエタキャップを開けないでください。

【守らないと】

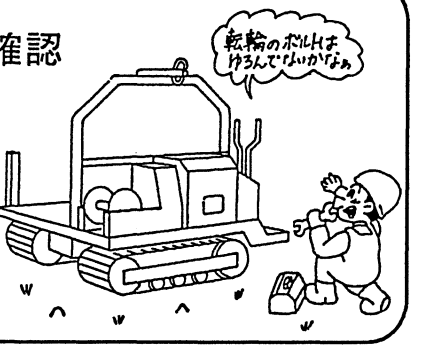
熱湯が吹きだし、火傷するおそれがあります。

⚠警告 転輪取付けボルトの締付け確認

転輪の取付けボルトは、確実に締付けてあるかを
確認してください。

【守らないと】

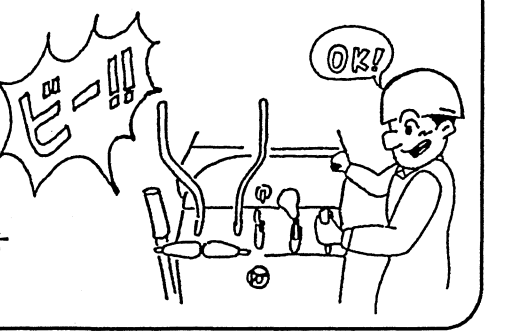
クローラが外れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



⚠注意 警報装置を必ず確認

【守らないと】

警報ができなくて、思わぬ傷害事故を引きおこすおそれがあります。

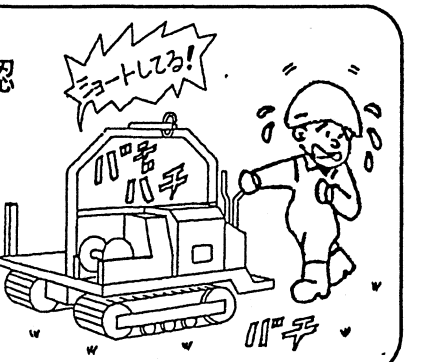


⚠警告 電気部品・コードを必ず確認

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故をおこすおそれがあります。

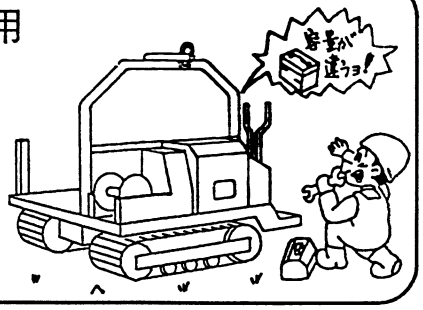


⚠危険 必ず規定のバッテリを使用（セルスタータ仕様）

バッテリを交換するときは、必ず規定のバッテリを使用してください。

【守らないと】

故障の原因となることがあります。



⚠危険 バッテリ点検時は火気厳禁（セルスタータ仕様）

バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリに引火し、爆発して火傷などを引きおこすおそれがあります。

⚠警告 バッテリ液を「下限(LOWER)」以下にしない（セルスタータ仕様）

バッテリ液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

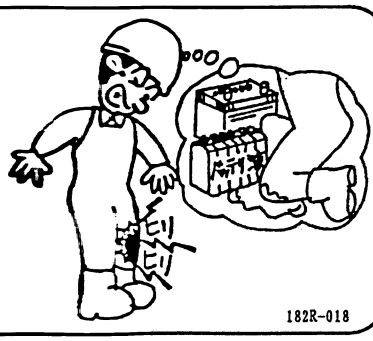
「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

⚠危険 バッテリ液は体につけない（セルスタータ仕様）

バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

火傷をしたり、服が破れるおそれがあります。



⚠危険 バッテリの取付け取外しは正しい手順で（セルスタータ仕様）

バッテリを取付ける時は⊕側をさきに取付け、取外す時は⊖側から取外します。

【守らないと】

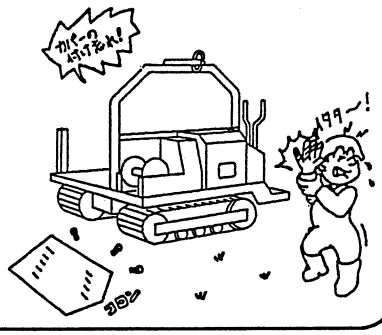
ショートして、火傷や火災事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意 カバー類は必ず取付ける

点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。

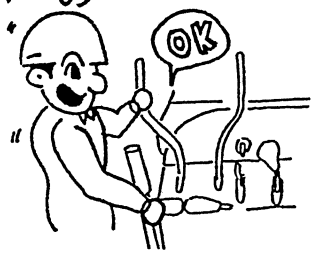


⚠警告 ブレーキ・サイドクラッチレバーの点検は必ず

ブレーキのききが悪かったりしないように、またサイドクラッチレバーの作動を点検してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



⚠危険 注油・給油はエンジンが冷えてから

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

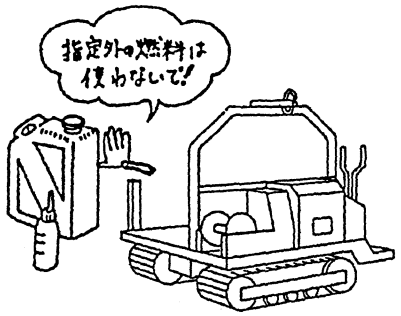
燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。

⚠危険 指定の燃料を使用

取扱説明書で指定している燃料を使用してください。
また、長期間ポリタンクで保管したガソリンは使用しないでください。

【守らないと】

性能が落ちたり火災事故をおこすおそれがあります。

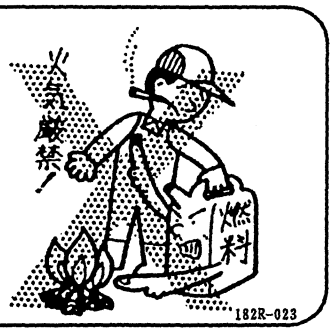


⚠危険 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災をおこすおそれがあります。

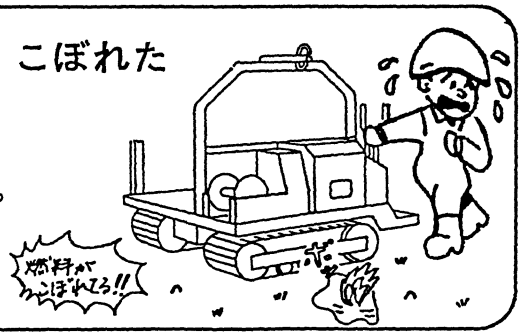


⚠危険 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料補給後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。

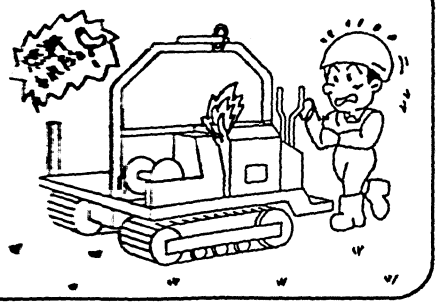


⚠危険 燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。

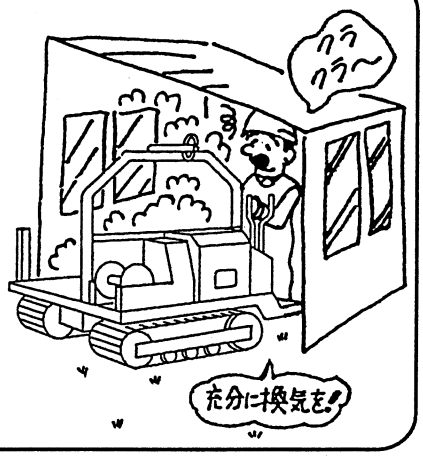


⚠警告　排気ガスには充分に注意

締切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、充分に換気してください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。

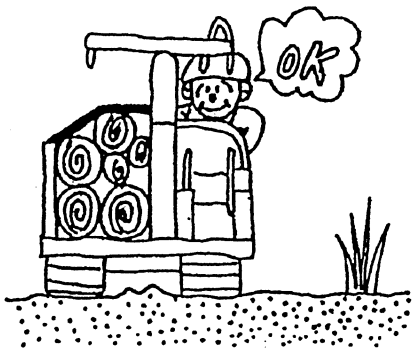


⚠注意　運転技能講習を受ける

この林内作業車は、最大積載量が1000kgですので、労働安全衛生法による運転技能講習を受けてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

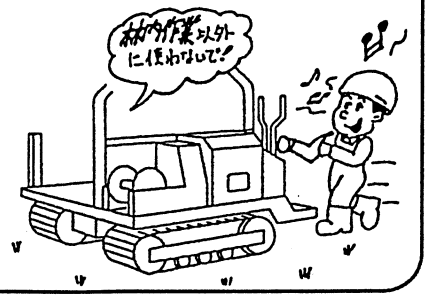


⚠注意　林内作業以外は使用禁止

林内作業車ですので、林内作業以外の作業や改造などは決してしないでください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。

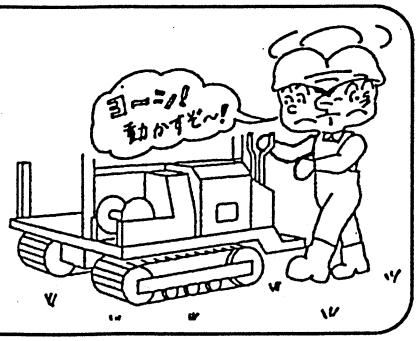


⚠警告　エンジン始動時は周囲確認

エンジン始動時は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

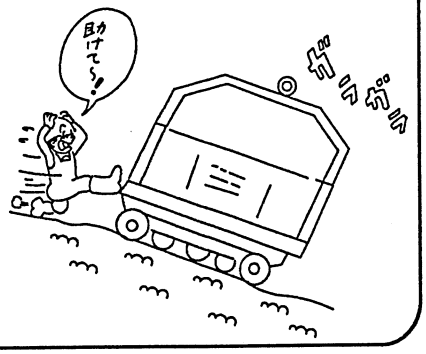


⚠警告　急坂道ではサイドクラッチレバー操作禁止

急な下り坂では、サイドクラッチレバーを操作しないでください。
急な下り坂では、エンジンブレーキを利用し、いつでもブレーキを掛けられる姿勢で運転してください。

【守らないと】

思わぬ方向に機械が旋回して、転落などの事故をまねくおそれがあります。

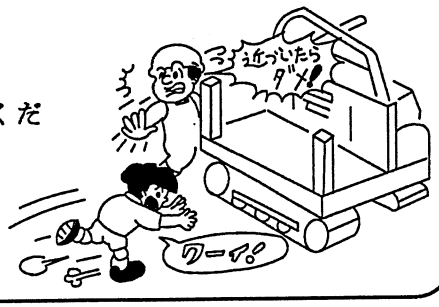


⚠警告　人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

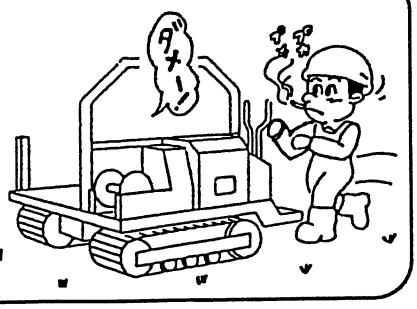
思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



⚠注意　くわえタバコでの作業厳禁

【守らないと】

火災など、思わぬ事故の原因となります。

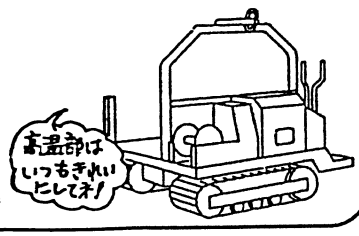


⚠警告　マフラー・エンジン回りのゴミは取除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検し、付着していれば取除いてください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。

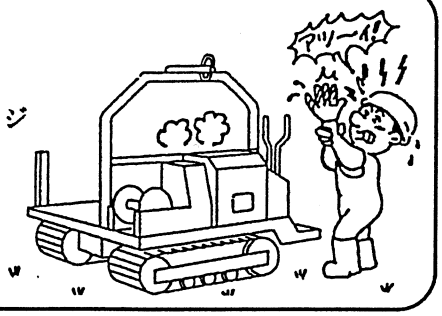


⚠注意　マフラーの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラー・エンジンは高温ですので触れないでください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。

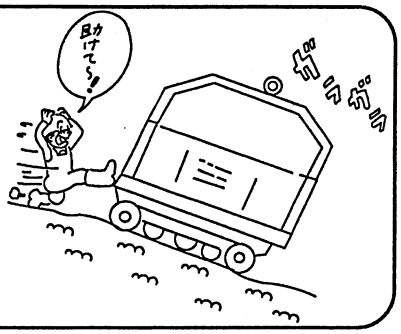


⚠注意　転落・墜落の防止

作業中、歩行中の転落、墜落の防止に努めてください。

【守らないと】

思わぬ事故のおそれがあります。



⚠注意　走行路沿いの材・枯木は、あらかじめ伐採

けん引する材などが枯損木に接触し、枯損木が倒れたり枯枝が飛来落下したりするので注意してください。

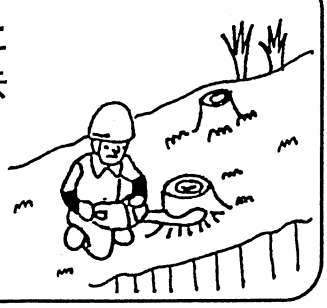
【守らないと】

思わぬ事故のおそれがあります。

⚠注意　走行路や走行する林地内の通路にある根株は切り下げ、岩石は除去する

【守らないと】

思わぬ事故のおそれがあります。

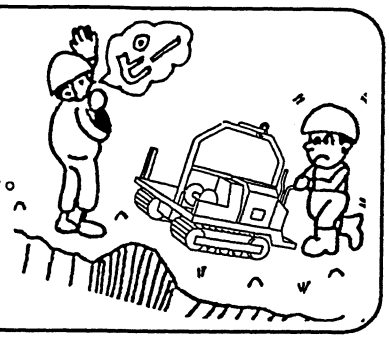


⚠注意 誘導者の配置

林内作業車の転倒または転落の危険が生じる恐れのあるときは、誘導者を配置し林内作業車を誘導してください。

【守らないと】

思わぬ事故のおそれがあります。

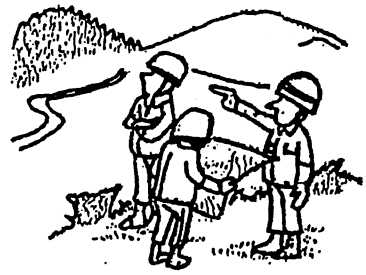


⚠注意 作業計画を作成

作業着手に先立って、作業箇所の事前踏査を行い必要事項を把握してください。事前踏査は、走行路の予定線、勾配、土場の位置、広さなどについて行うほか、作業の進め方、作業上注意を要する箇所等、安全上必要な対策などについて行ってください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。



⚠注意 作業指揮者を定める

集材作業を行うときは、当該作業の指揮者を定め、その者に作業計画に基づいて作業の指揮を行わせてください。

【守らないと】

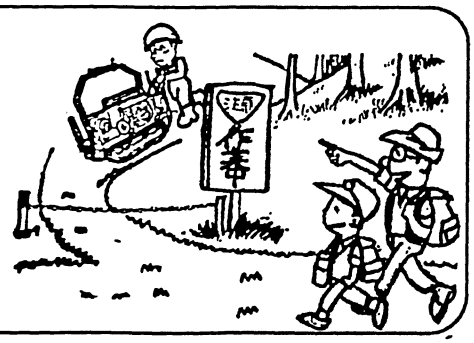
思わぬ事故をまねくおそれがあります。

⚠注意 標識の設置

林内作業車で集材作業を行うときは、必要に応じて見えやすい箇所に標識を設置してください。

【守らないと】

第三者も事故にまきこまれるおそれがあります。

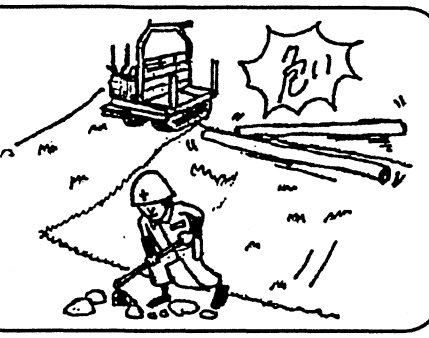


⚠注意 上下作業の禁止

斜面で作業を行う場合は、作業者が下にならないようにしてください。

【守らないと】

材が滑り落ちて事故のおそれがあります。

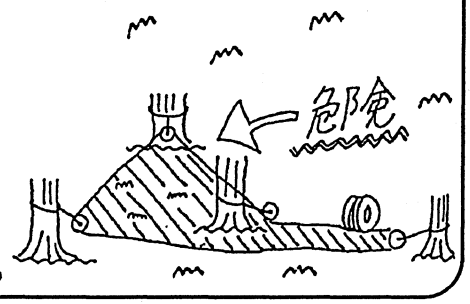


⚠注意 危険区域での作業の禁止

ウインチロープで材を引寄せるなどの集材作業を行っているときは、索の切断などにより飛来するおそれのある箇所には立入らないでください。

【守らないと】

思わぬ事故のおそれがあります。

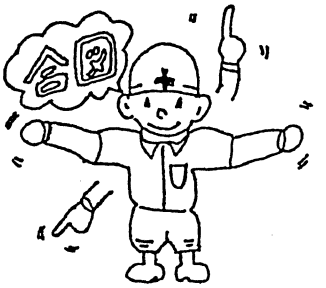


⚠注意 合図(信号)、指差呼称

運転者とその他の作業者の間の連絡合図には決められた者が、一定の信号及び警報を定め、これを確認して確実に守ってください。

【守らないと】

思わぬ事故のおそれがあります。

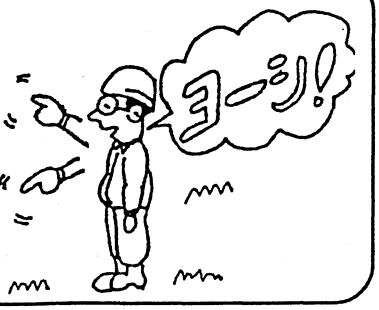


⚠注意 指差呼称

労働災害防止の手法として、指差呼称をしてください。

【守らないと】

思わぬ事故のおそれがあります。

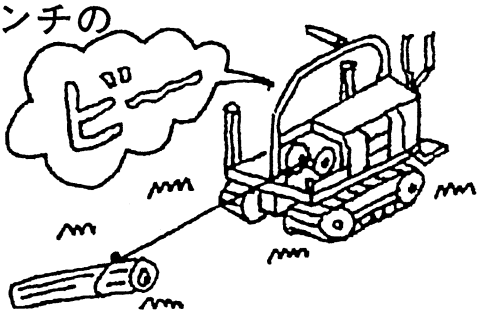


⚠注意 警報器を鳴らしてウインチの運転、発進等を行う

見込み運転はしないでください。

【守らないと】

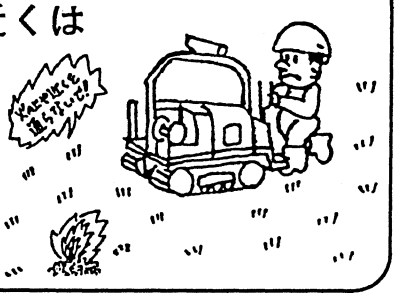
思わぬ事故のおそれがあります。



⚠警告 燃えているゴミの上やその近くは走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。

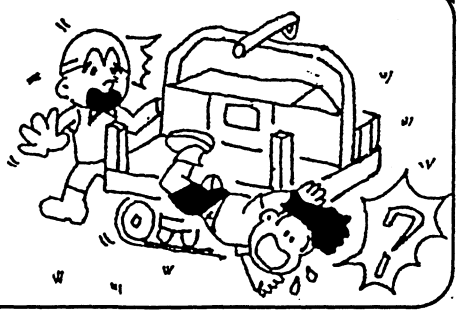


⚠注意 荷台には乗らない

走行中は荷台に乗って運転したり、人を乗せないでください。

【守らないと】

転落などにより、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

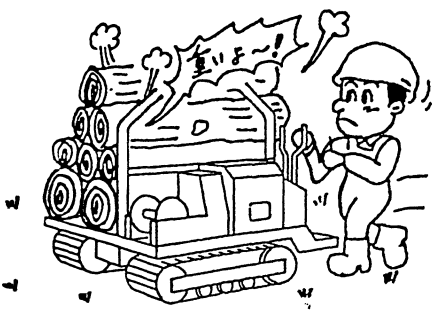


⚠警告 過積載禁止

最大積載量以内で運搬してください。特に坂道では荷物を軽くして作業してください。

【守らないと】

転倒などにより機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

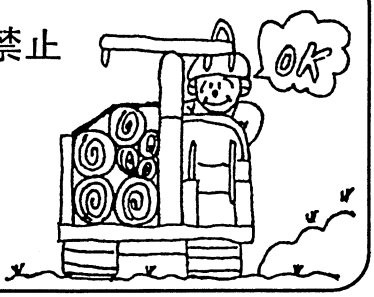


⚠警告 積載物は荷台から、はみ出し禁止

積載物は荷台から、はみ出さないようにしてください。

【守らないと】

荷くずれをおこし転倒・転落事故を起こすおそれがあります。



⚠警告 積載物を高くつまない

積荷が高くなると機械のバランスが崩れやすく、また前方の障害物の確認ができませんので積載物を高くつまないでください。
最上部の材は、その材の直径の半分以上がサイドボールにかかること。

【守らないと】

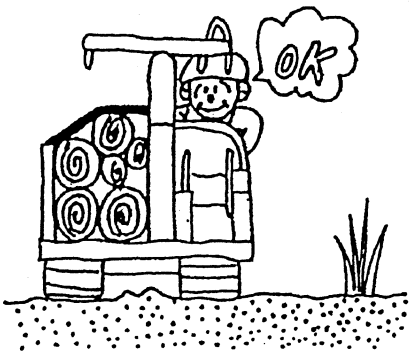
機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

⚠警告 積載物にはロープを掛け、確実に固定する

積載物は荷くずれしないように、確実にロープを掛けて固定してください。
大径材は目落し積みにしてください。
上部は崩れにくいカマボコ型にしてください。
荷縛りロープは荷締め専用器具を使用し、
荷縛りロープは材に直角に掛けてください。

【守らないと】

荷くずれをおこし転倒・転落事故を起こすおそれがあります。

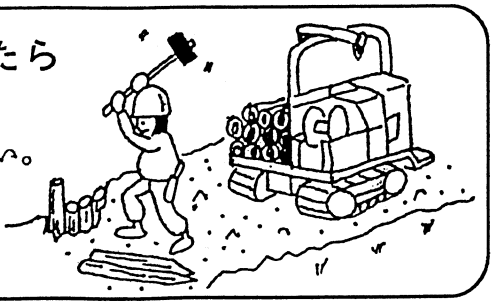


⚠警告 地盤路肩に異常を感じたら直ちに停止

異常を発見したときには直ちに補修してください。

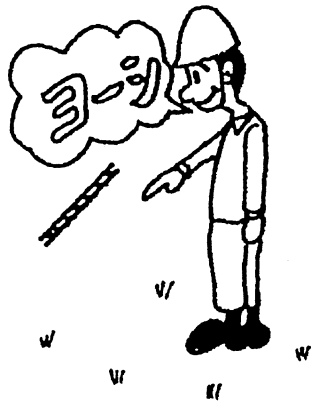
【守らないと】

思わぬ事故のおそれがあります。



⚠警告 ワイヤロープは必ず点検

必要に応じワイヤロープに給油してください。
ワイヤロープは、最大に引出したときでもウインチに三巻き以上残してください。
ワイヤロープをドラムに巻付けるときは、乱巻きにならないようにしてください。
ワイヤロープの1よりの間において、素線数の10％以上の素線が切断しているものは、使用しないでください。
ワイヤロープの磨耗による直径の減少が、公称径の7％をこえるものは使用しないでください。
ワイヤロープに著しい形くずれ又は腐食のあるものは使用しないでください。



【守らないと】

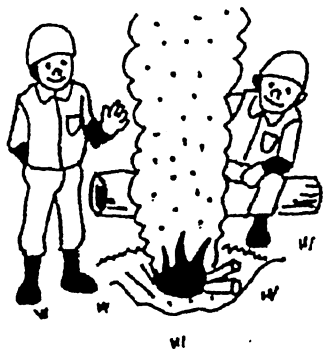
重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意 悪天候時は作業禁止

強風、大雨、大雪等のため危険が予想されるときは、作業を中止してください。

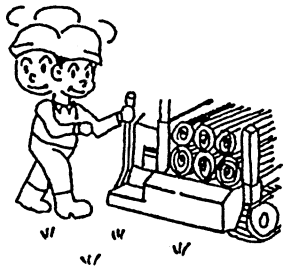
⚠注意 火災の防止

タバコ・マッチの後始末は、完全にしてください。
たき火は、まわりの燃えやすいものを取除き、土を掘るなどしてたきつけてください。
たき火を消すときは、水や土を掛け完全に消えたことを確認してください。
異常乾燥の日や、風の強い日のたき火はやめてください。
火災が発生したときは、あわてず初期消火に努めてください。



⚠危険 サイドポール解除時、周囲確認

サイドポール解除レバーを操作する前に、荷降し場の安全を確認のうえ、他の作業者に合図し退避を確認してから操作してください。



【守らないと】

重大な障害を負うおそれがあります。

⚠危険 ウインチ操作中に、ウインチクラッチ ウインチブレーキ以外の使用禁止

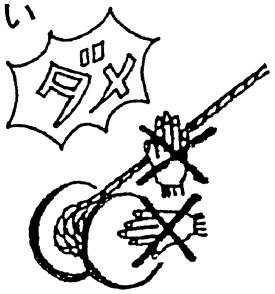
ワイヤロープで吊上げ中に、空引きクラッチレバー・ウインチ変速レバー・ウインチドラム切換えレバー・エンドレスドラム切換えレバーの操作はしないでください。

【守らないと】

材が急に落下して重大な障害を負うおそれがあります。

⚠警告 ワイヤ、ウインチには手を入れない

ウインチ使用時は、ウインチ・ワイヤロープ・ウインチドラム・エンドレスドラムには絶対手を触れないでください。

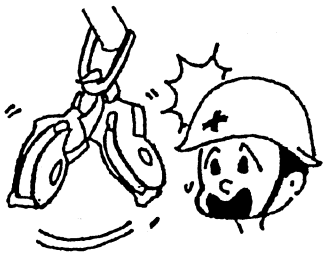


【守らないと】

手を損傷、切断するおそれがあります。

⚠危険 ウインチ操作中、滑車のはね返り危険

滑車の揺れに気をつけてください。

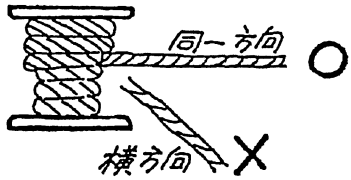


【守らないと】

頭部、顔部等にはね返り障害を負うおそれがあります。

⚠注意　ウインチと同一方向に引っ張る

引寄せ作業のときは、林内作業車の車体と材を引寄せる方向が同一になるようにし、引寄せ材が根株などの障害物に引掛からない場所で使用してください。

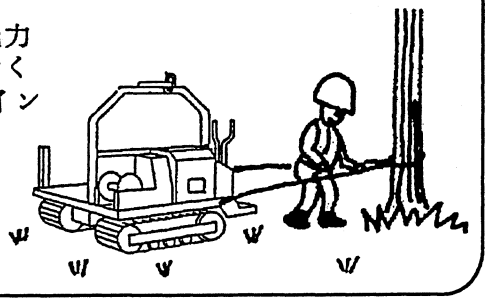


【守らないと】

車体がねじれて事故のおそれがあります。

⚠注意　ウインチ能力以上の使用禁止

ウインチポール吊上げ能力最大200kg、直引き能力最大800kgです。これ以上の荷は引っ張らないでください。本機の転倒防止のため、ワイヤ等でウインチポール及び本機を固定してください。



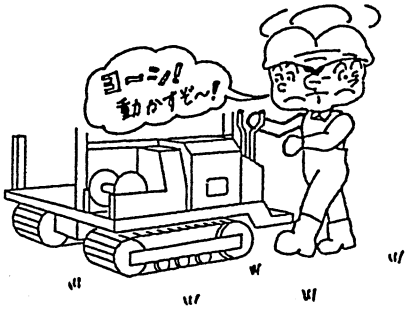
【守らないと】

思わぬ事故のおそれがあります。

●使用上の注意項目

⚠警告 周囲に合図してゆっくりと発進

エンジン始動時は必ず走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーは「ブレーキ」位置ウインチクラッチレバーは「切」位置、ウインチブレーキレバーは「ブレーキ」位置にして周囲の人に合図してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

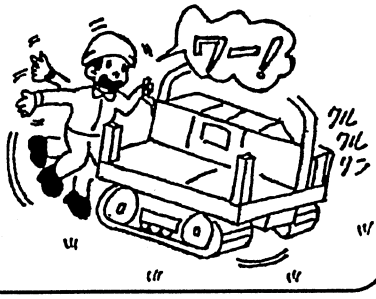


【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。

⚠注意 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、充分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、充分速度を落としてください。

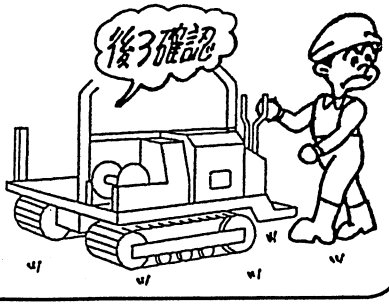


【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。

⚠危険 後進するときは低速で

後進で移動するときは低速で行い、転倒しないように足元に充分注意し、後方に障害物がないか確認して障害物と機械との間に挟まれないようにしてください。

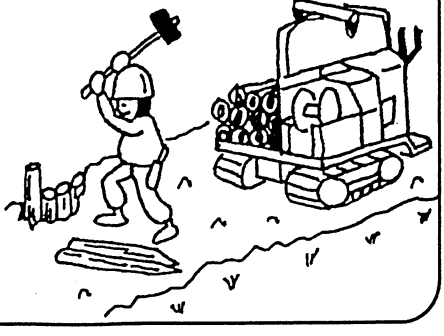


【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。

⚠危険 移動時は路肩に注意

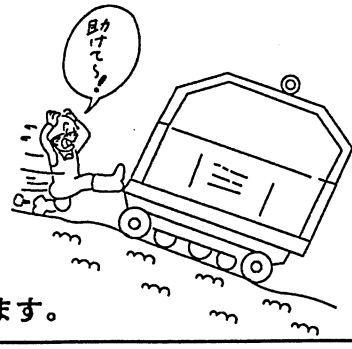
歩道・路肩・障害物乗り越え・溝のある場所・軟弱地などでは、充分注意してスピードを落として走行してください。



【守らないと】

転落・転倒などの事故によりけがをするおそれがあります。

⚠警告 ブレーキの使い過ぎ禁止

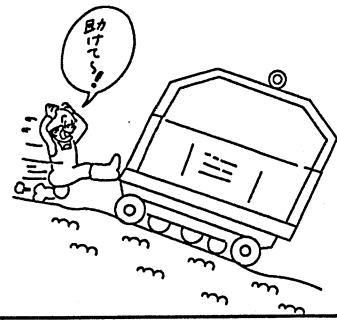


急な下り坂での走行は充分注意しておこなってください。変速は低速段にして、エンジンブレーキを利用し、いつでもブレーキを掛けられる姿勢で運転してください。

【守らないと】

ブレーキがきかなくなり、事故をおこすおそれがあります。

⚠警告 ブレーキのまま走行禁止

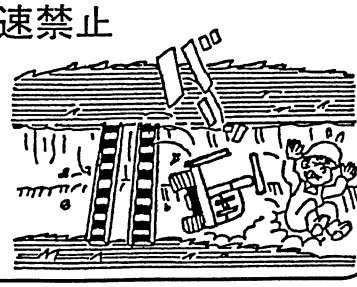


駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置のままで走行しないでください。

【守らないと】

ブレーキがきかなくなり、けがをするおそれがあります。

⚠警告 急坂道・あゆみ板の上では変速禁止

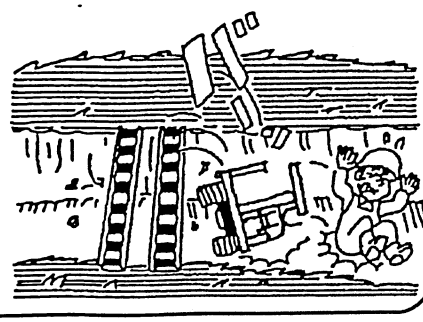


急坂道やあゆみ板の上では、「前進1」、「後進1」の低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。

⚠警告 坂道やあゆみ板の上では、だ性運転禁止



坂道やあゆみ板の上での走行は充分注意しておこなってください。走行クラッチレバーを「切」位置にしたり、主変速レバーを「中立(N)」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

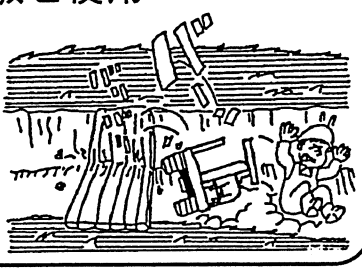
機械の重みで坂を下り、転落などの事故をまねくおそれがあります。

⚠警告 わき見運転や手放し運転禁止

【守らないと】
傷害事故の原因となります。

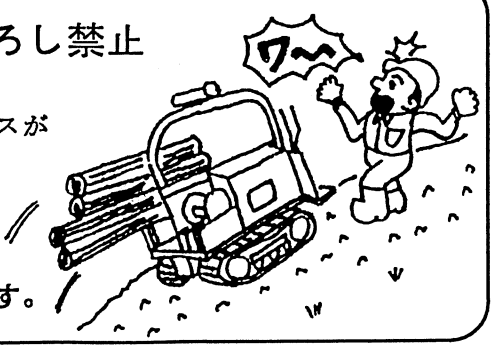
⚠警告 溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用

圃場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずあゆみ板を使用してください。
あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。



【守らないと】
スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。

⚠警告 坂道では、荷物の積降ろし禁止

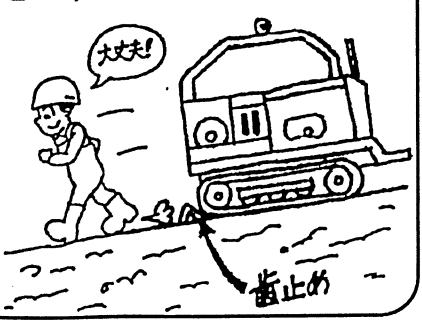


坂道で荷物の積降ろしをすると、本機のバランスが崩れますのでしないでください。

【守らないと】
転倒などにより、事故をまねくおそれがあります。

⚠注意 機械から離れるときは平坦地に置き エンジン停止

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置きエンジンを停止し走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず歯止めをしてください。



【守らないと】
機械が動きだし、事故の原因となります。

●トラックへの積込み・積降ろしするときの注意項目

⚠警告 強度・長さ・幅の充分あるあゆみ板を使用

積込み・積降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所に、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け歯止めをしてください。使用するあゆみ板は、強度・長さ・幅が充分あり、スリップしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

《あゆみ板の基準》

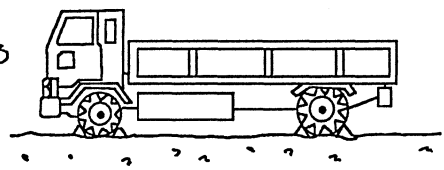
- ●強度…本機の重量に充分耐えるもの
- ●長さ…トラックの荷台高さの4倍以上
- ●幅……クローラ幅に合ったもの
- ●表面…スリップしないもの

⚠警告 トラックには必ず歯止めを

積み込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、サイドブレーキを掛けて歯止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



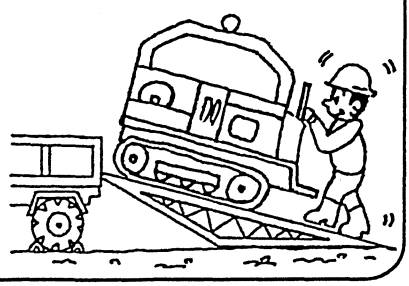
182R-055

⚠警告 あゆみ板は、確実に掛ける

あゆみ板をそれぞれのクローラに合わせ、フックをトラックの荷台へ確実に掛けてください。

【守らないと】

あゆみ板がはずれて本機が転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

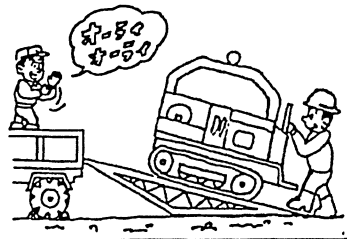


⚠警告 積込み・積降ろし作業は誘導者をつけて

トラックなどからの積込み・積降ろし作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を充分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

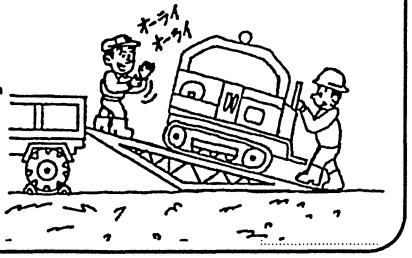


⚠警告 積込み・積降ろし作業中、機械の前には絶対立たない

トラックなどからの積込み・積降ろし作業中は、機械の直前には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。



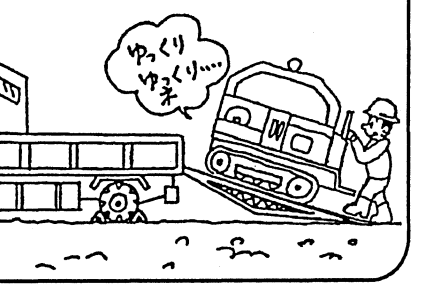
⚠警告 登るときは前進、降りるときは後進で

操作部荷台向位置にし、積込みの場合「前進1」、積降ろしの場合「後進1」の低速でおこなってください。

乗用運転はしないでください。

【守らないと】

バランスを崩し転落などの事故を引きおこすおそれがあります。

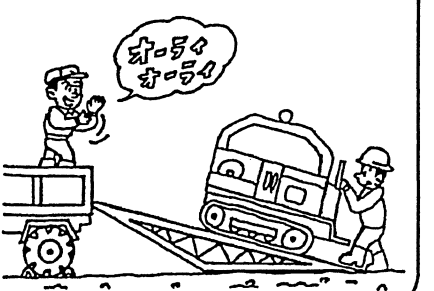


⚠警告 あゆみ板の上ではサイドクラッチレバー操作厳禁

あゆみ板の上で進路変更をすることがないように前もって進路を定めて最低速度でおこなってください。進路を変えるための、サイドクラッチレバー操作は絶対にしないでください。方向を直す場合は、平坦な場所に戻ってからおこなってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。



⚠警告 ロープでトラックに確実に固定

トラックにのせて移動するときは、本機のエンジンを停止させ駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にし、主変速レバーを入れ燃料コックを「閉」にしてから動かないように歯止めをし、強度の充分あるロープでトラックに本機を確実に固定してください。

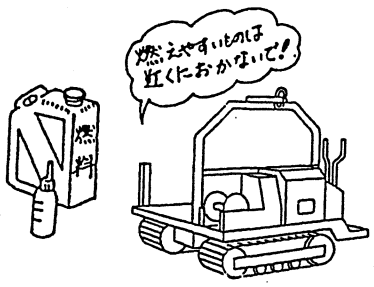
【守らないと】

トラックから本機が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。

●格納時の注意項目

⚠注意　機械の近くには可燃物を置かない

機械を格納するときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを停止してください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず歯止めをしてください。近くに燃えやすい物がないか、また、燃えやすい物があれば取除いてください。



【守らないと】

機械が動きだしたり、火災事故を引きおこすことがあります。

⚠注意　長期格納時はクラッチを切る

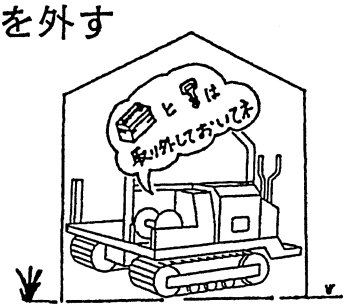
長期間格納する際には、必ず走行クラッチレバーを「切」状態にしてください。

【守らないと】

走行クラッチが切れなくなり、事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告　長期格納時はバッテリとキーを外す（セルスタータ仕様）

長期間使用しないで格納する場合はバッテリを取外し、キーを抜取り保管してください。バッテリを取外すときは㊀側を先に外します。



【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。

⚠危険　シートは機械が充分冷えてから

エンジンを停止しエンジン・マフラーなどの高温部が冷えてからシートをかけてください。長期格納時は、燃料タンク・気化器内の燃料を抜取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。

サービスと保証について

保証書について

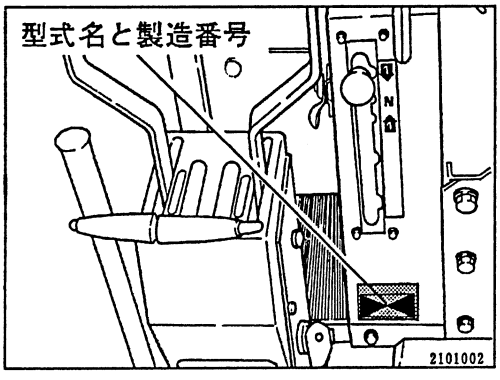
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

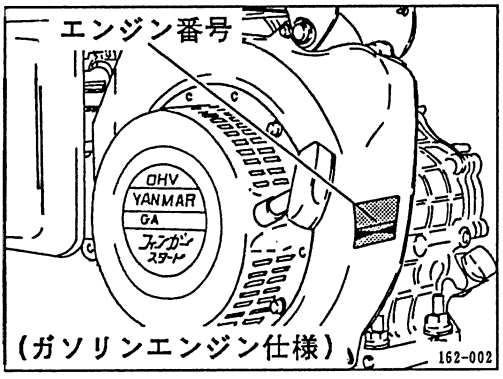
アフターサービスについて

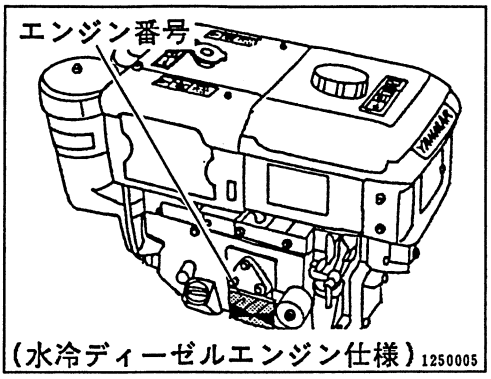
機械の調子が悪いときに、77～78ページの「不調診断」にしたがって点検・処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にしてお買上げいただいた販売店までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は?
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか?
  （約□□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。







補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

形式・仕様について

本機には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、形式・仕様によっては該当しない項目もあります。

仕様記号

- SC10W2 ……ガソリンエンジン・リコイルスタータ
- SC10W2-E……ガソリンエンジン・セルスタータ
- SCD10W2-E……水冷ディーゼルエンジン・セルスタータ

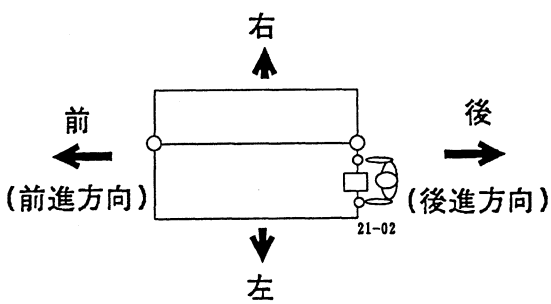
本製品の使用目的について

本製品は、林内作業車ですので、林内の作業としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

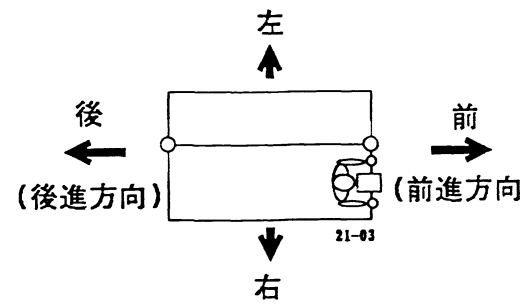
方向について

本機の前後は、右図のように作業者から見た方向で表わします。
本文中の、前進・後進についても、作業者から見た方向で表わします。

操作部荷台向位置の時



操作部荷台逆向位置の時



各部のなまえ

モデルSCD10W2-E

●サイドポール解除レバー
サイドポールを倒すときに使用します。

●キースイッチ

●ウインチポール

●ウインチクラッチレバー
ウインチへの動力を伝えたり、
切ったりするのに使用します。

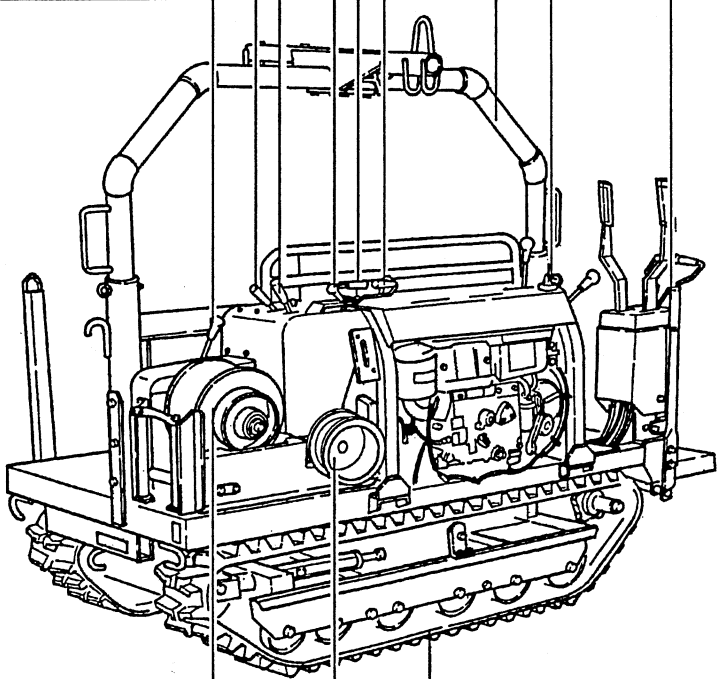
●ウインチブレーキレバー

●ウインチ変速レバー
巻取速度の変速に使用します。
三逆転共2段。

●ウインチドラム切換えレバー

●エンドレスドラム切換えレバー

●空引きクラッチレバー

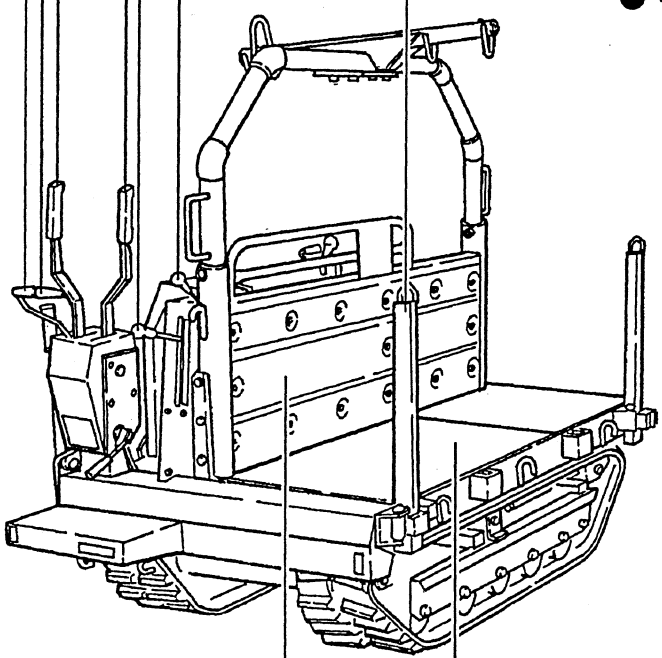


●ウインチドラム
ワイヤの巻取作業に使用します。

●エンドレスドラム
簡易索道に使用します。

●クローラ

モデルSCD10W2-E



●駐車ブレーキレバー
駐車ブレーキに使用します。

●走行クラッチレバー
エンジンからの動力を伝えたり、
切ったりするのに使用します。

●サイドクラッチレバー
レバーは、それぞれ独立していて
レバーを引いた側のクローラの回転
が止り、機体はレバーを引いた方向
に曲ります。

●主変速レバー
主変速位置を変えるときに
使用します。

●副変速レバー
低速、高速の切換えに使用します。

●サイドポール

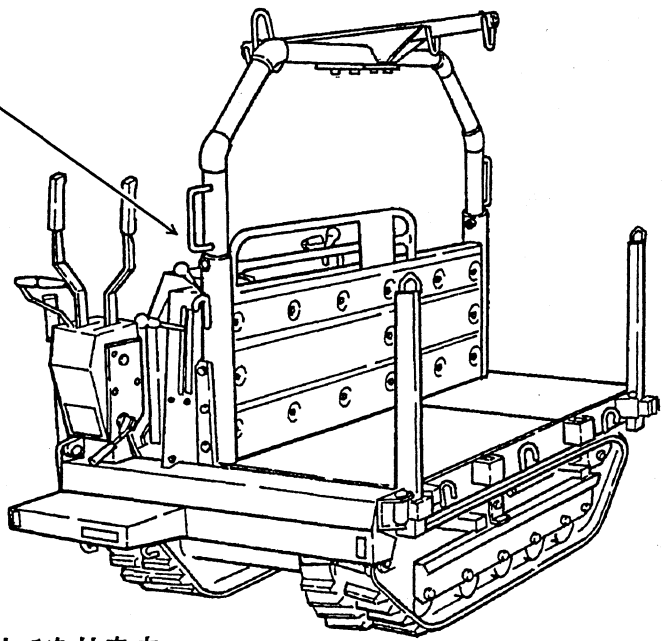
●床板

●側面カバー

安全銘板の貼り付け位置

⚠注意 ●安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。
●安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし汚れや破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。安全銘板のご購入は、お買上げいただいた販売店にお申し付けください。

［ガソリンエンジン仕様］

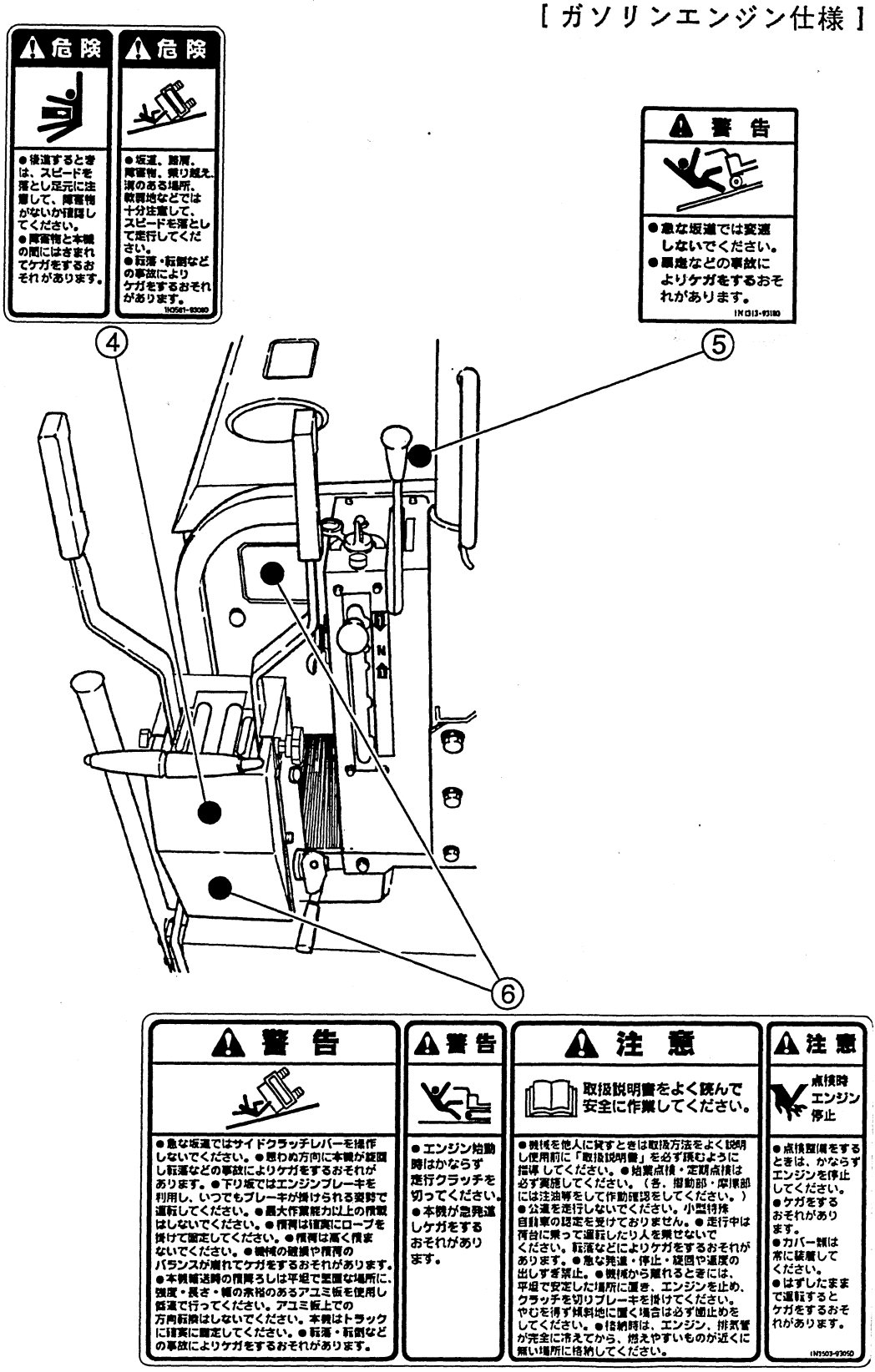


●No.1～No.3はエンジンに貼り付けてあります。
No.4～No.6はP32で説明しています。

No.	部品番号	品名
1	1E5120-86600	警告(排ガス)
2	1A2100-86500	危険(火気厳禁)
3	1E5120-86720	注意(マフラー)
4	1N3561-93090	危険一式
5	1N1313-93180	警告(急坂変速禁止)
6	1N3503-93050	警告・注意一式

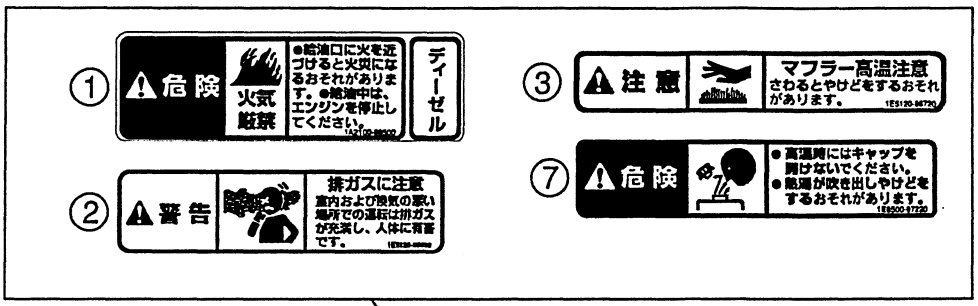
安全銘板の貼り付け位置

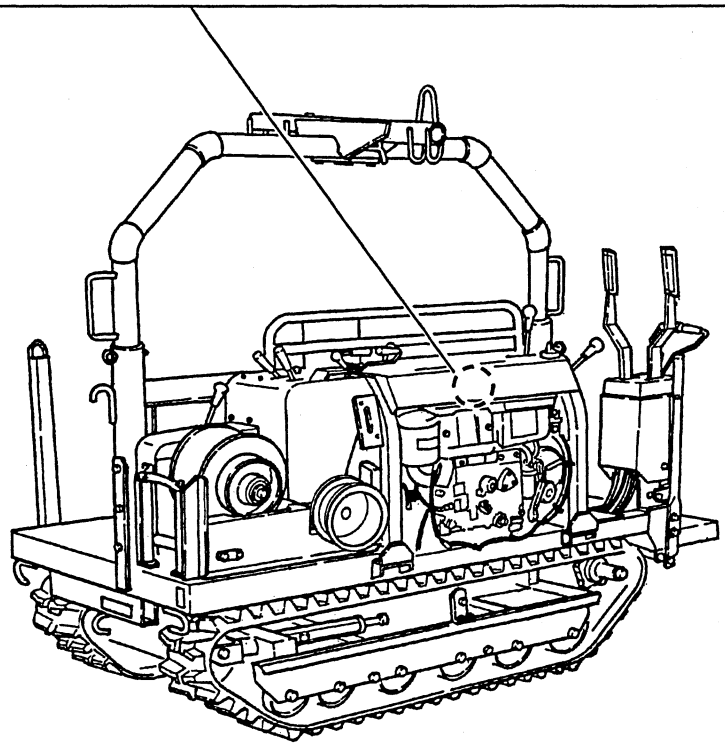
［ガソリンエンジン仕様］



安全銘板の貼り付け位置

［水冷ディーゼルエンジン仕様］



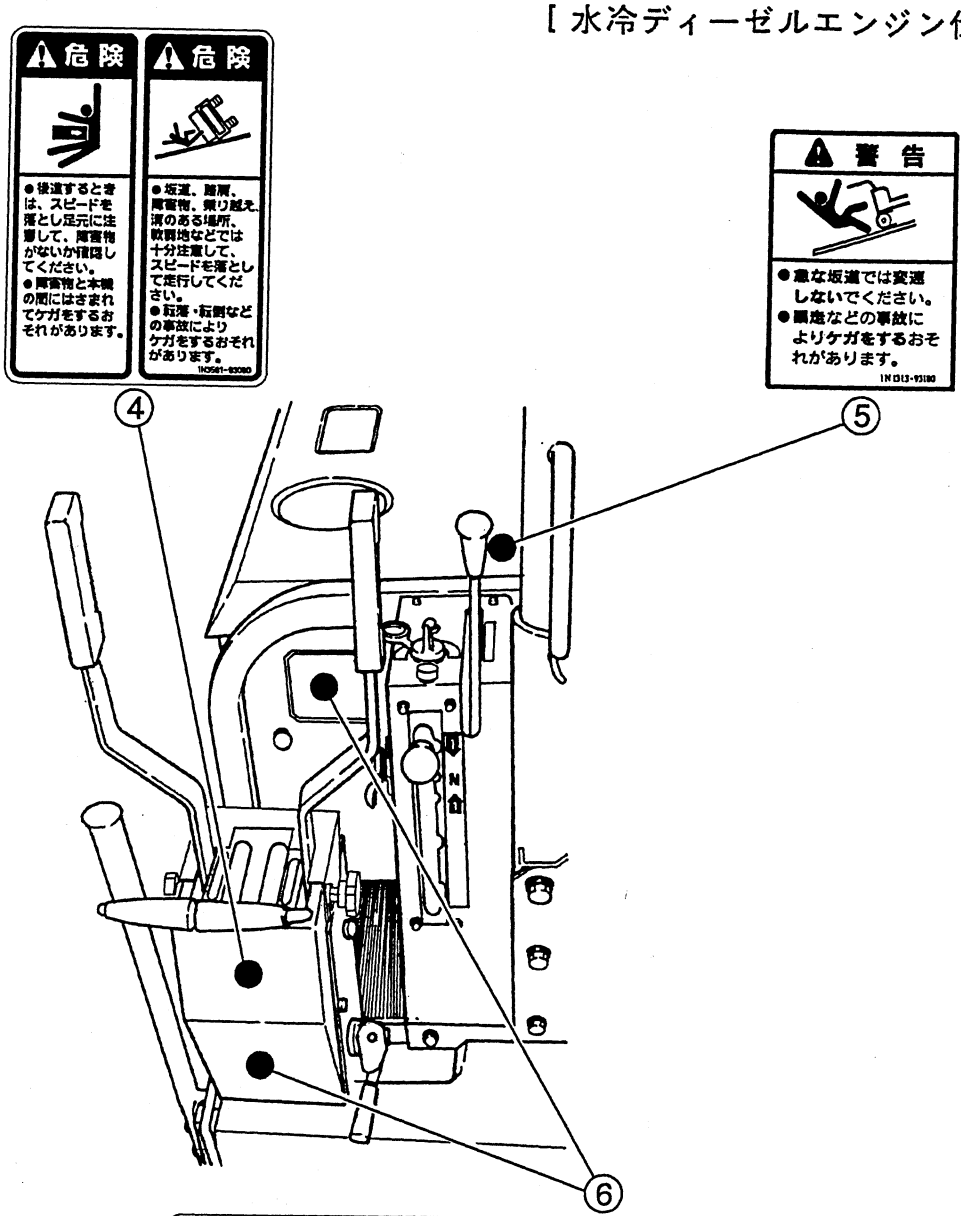


●No.1～No.3、No.7はエンジンに貼り付けてあります。
No.4～No.6はP32で説明しています。

No.	部品番号	品名
1	1E8320-97030	危険(火気厳禁)
2	1E5120-86600	警告(排ガス)
3	1E5120-86720	注意(マフラー)
4	1N3561-93090	危険一式
5	1N1313-93180	警告(急坂変速禁止)
6	1N3503-93050	警告・注意一式
7	1E8500-97220	危険(高温時キャップ)

安全銘板の貼り付け位置

［水冷ディーゼルエンジン仕様］



警告

●急な坂道ではサイドクラッチレバーを操作しないでください。●思わぬ方向に本機が旋回し転落などの事故によりケガをするおそれがあります。●下り坂ではエンジンブレーキを利用し、いつでもブレーキが掛けられる姿勢で運転してください。●最大作業能力以上の積載はしないでください。●積荷は確実にロープを掛けて固定してください。●積荷は高く積まないでください。●機械の破損や積荷のバランスが崩れてケガをするおそれがあります。●本機輸送時の積降ろしは平坦で堅固な場所に、強度・長さ・幅の余裕のあるアユミ板を使用し低速で行ってください。アユミ板上での方向転換はしないでください。本機はトラックに確実に固定してください。●転落・転倒などの事故によりケガをするおそれがあります。

警告

●エンジン始動時はかならず走行クラッチを切ってください。●本機が急発進しケガをするおそれがあります。

注意

取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。

●機械を他人に貸すときは取扱方法をよく説明し使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。●始業点検・定期点検は必ず実施してください。（各、摺動部・摩擦部には注油等をして作動確認をしてください。）●公道を走行しないでください。小型特殊自動車の認定を受けておりません。●走行中は荷台に乗って運転したり人を乗せないでください。転落などによりケガをするおそれがあります。●急な発進・停止・緩回や速度の出しすぎ禁止。●機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止め、クラッチを切りブレーキを掛けてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず歯止めをしてください。●格納時は、エンジン、排気管が完全に冷えてから、燃えやすいものが近くに無い場所に格納してください。

注意

点検時エンジン停止

●点検整備をするときは、かならずエンジンを停止してください。●ケガをするおそれがあります。●カバー類は常に装着してください。●はずしたままで運転するとケガをするおそれがあります。

1.運転前の点検

⚠危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。
- 燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭きとってください。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますのでかならず点検してください。
  守らないと、火傷や火災をおこすおそれがあります。
- ラジエタが熱いときはラジエタキャップを開けないでください。熱湯が吹きだし、火傷するおそれがあります。
  （水冷ディーゼルエンジン仕様）

⚠警告

- 点検、整備は、交通の危険がなく機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で歯止めをした上で行ってください。さもないと、思わぬけがをするおそれがあります。
- マフラー・エンジン回りのゴミは取除いてください。火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。

⚠注意

- 点検、整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が冷えてから行ってください。高温部に触ると、火傷をするおそれがあります。
- 点検、整備などで取外したカバー類は、かならず取付けてください。守らないと機械に巻込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 感電ショック防止のため、運転中はプラグコード、点火プラグ・プラグキャップ部に触れないでください。
  （ガソリンエンジン仕様）

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

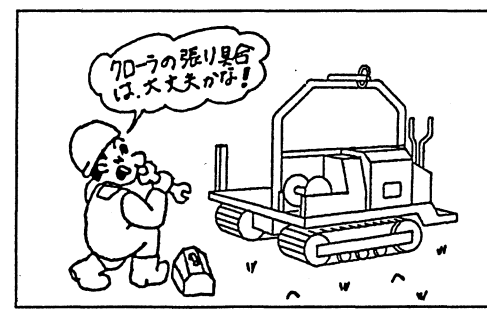
点検は次の順序で行ってください。

❶ 前日の異常箇所

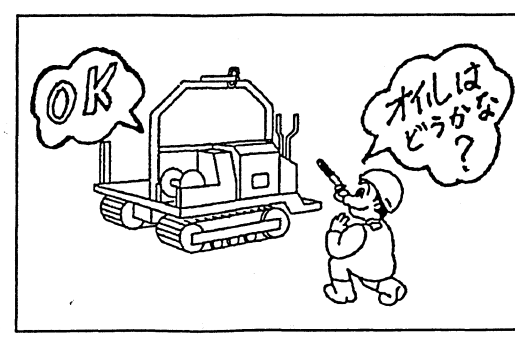
- 前日の作業中に異常を感じたところがあれば作業に支障がないか点検します。

❷ 本機のまわりを回ってみて

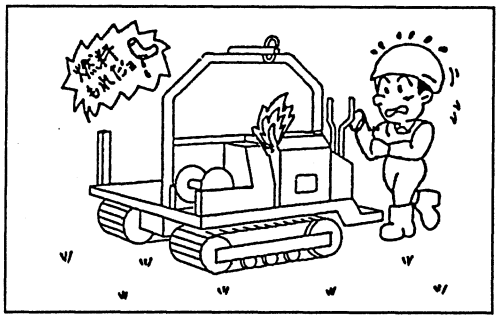
- 各部の変形・損傷・汚れ
- 走行ミッション・ウインチ用ミッションオイルの油もれ　…37・66ページ
- クローラの張り具合・摩耗度合・損傷
  …73ページ



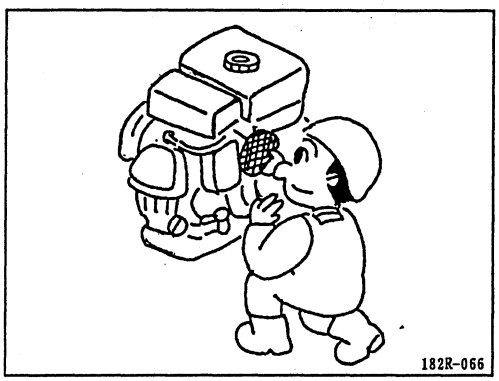
- 転輪取付けボルトのゆるみ
  …76ページ
- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ
- サイドクラッチレバーの締付け状態
- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ
  …36・66ページ



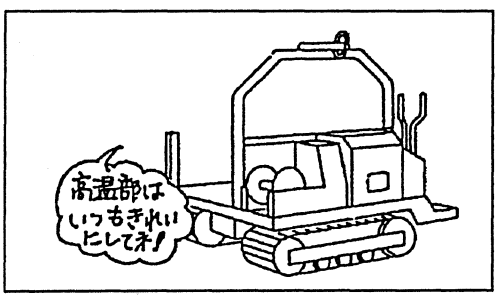
●燃料の量と燃料もれ燃料パイプの損傷
…35・70ページ



●エアクリーナの汚れ　…67ページ

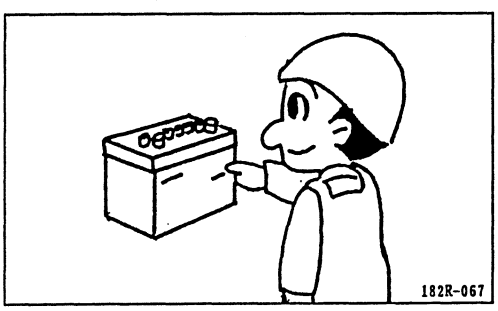


●マフラーなどの高温部分のほこりやゴミ



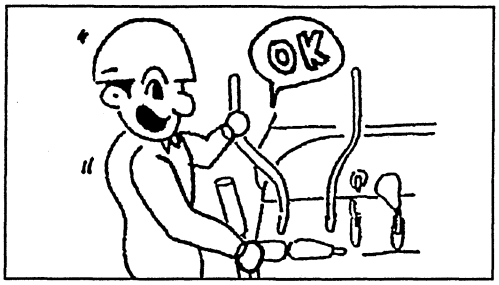
●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ　…70ページ

●バッテリ液の量　…72ページ



❸ レバーを操作してみて

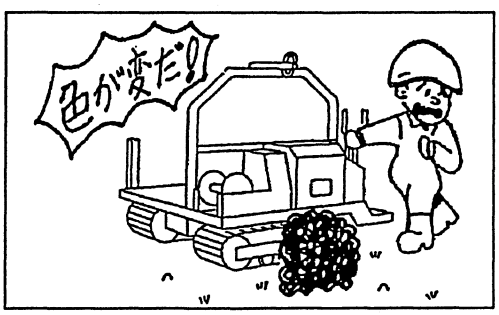
●各レバーの遊び量…73～75ページ



❹ エンジンを始動してみて

●エンジン始動後の異音

●排気ガスの色



●各レバーの作動状態

●ウインチ各部の点検
（クラッチ、ブレーキの作動）

●ワイヤロープの摩耗・損傷

●警報器の点検

2.燃料の点検・給油のしかた

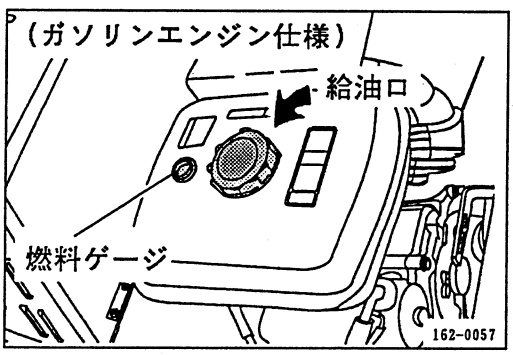
⚠危険

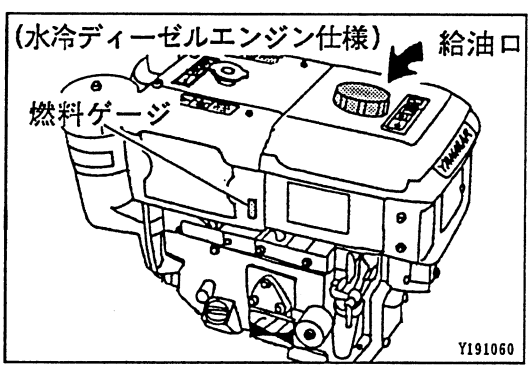
●水冷ディーゼルエンジンの場合、間違ってガソリンなどを入れると危険です。燃料の種類に間違いがないか、補給前に今一度確かめてください。

●燃料をフィルタの赤印枠以上に入れないでください。機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれることがあります。
万一、引火した場合、火災のおそれがあります。(ガソリンエンジン仕様)

点検

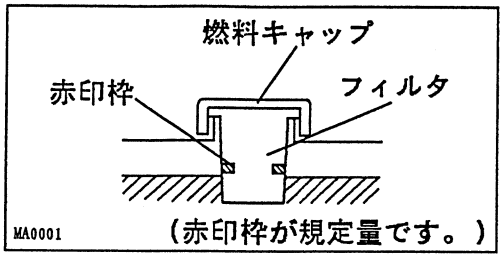
ガソリンエンジンの場合、燃料タンク上面の燃料ゲージ(水冷ディーゼルエンジンの場合は燃料タンク横の燃料ゲージ)で、燃料の残量を調べ、不足している場合は、上部の給油口から補給してください。





給油

ガソリンエンジンは「レギュラーガソリン」をフィルタについている赤印枠より、ややひかえめに入れてください。



水冷ディーゼルエンジンは、「ディーゼル軽油」を燃料ゲージにより量を確認して入れてください。

取扱いの注意

●長期間ポリタンクで保管したガソリンは、使用しないでください。樹脂成分の溶解・紫外線透過により変質しやくすキャブレタ部品の穴詰まり等のトラブルの原因となります。ガソリンを保管する場合は、ガソリン専用の鋼製燃料タンクで保管してください。

3.ラジエタへの給水のしかた

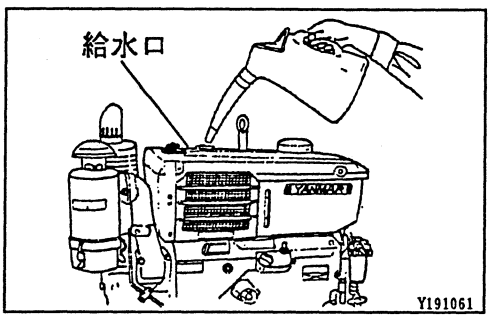
［水冷ディーゼルエンジン仕様］

⚠危険

- ●運転中や停止直後はラジエタキャップを開けると蒸気・熱湯が吹きだして危険です。温度が下がるのを待ち布きれなどで包んで静かにゆるめてください。
- ●ラジエタキャップは確実に締めてください。

給水

ラジエタ上部のキャップを外して給水口の口元まで水道水などきれいな水を入れてください。



キャップは左(反時計方向)に約120度まわすとはずれます。締めるときはキャップ裏側の爪を給水口の切り欠きに合わせて、押さえながら右(時計方向)に約120度まわしてください。

取扱いの注意

- ●水道水だけでは水路内で水あか・錆などが発生するため冷却が悪くなります。防錆剤または、不凍液の添加をおすすめします。
- ●冬季寒冷時期には、エンジン内部で冷却水が凍結して、膨脹するため凍結予防のため必ず不凍液を入れてください。

防錆剤	ロイヤルキャビラストン
不凍液	スーパーフリーズ

※防錆剤の添加混合割合は6％(標準)です。不凍液を入れる場合は、防錆剤の添加は必要ありません。(防錆効果があります)また年間を通じてそのまま使用できます。

- ●不凍液の混合割合は気温に応じて指定されております。
- ●不凍液の入れ過ぎは、エンジンの冷却を悪くしますので、必ず混合比率をお守りください。

最低気温(℃)	- 5	-10	-15	-20	-25
混合比率(%)	12	22	29	35	44

※冷却水容量(1.25 ℓ)を上表の割合で混合します。

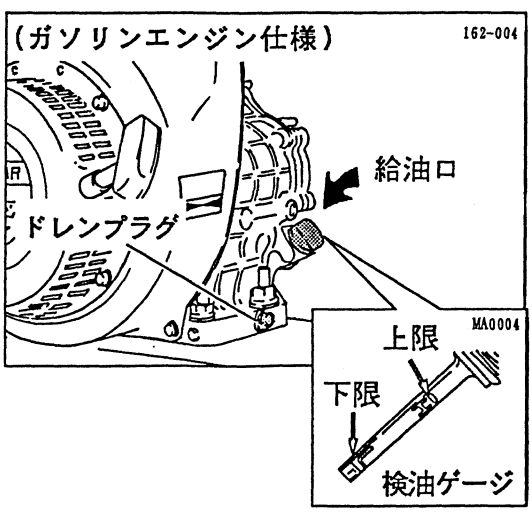
4.各部オイルの点検・交換のしかた

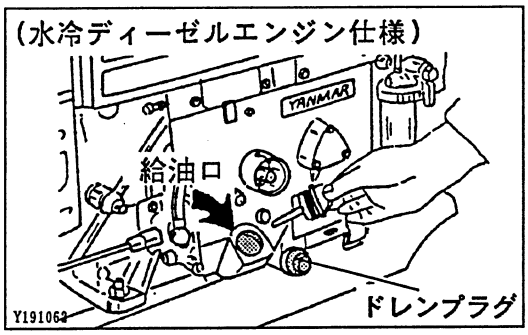
古くなったオイルは、機械の性能を落すだけではなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜取り、新しいオイルを規定量給油してください。

エンジンオイル

点検

給油口の蓋を外して、検油ゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差込み、再び抜いて検油ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。





交換

エンジンクランク室の給油口を取外してから、ドレンプラグを外して汚れたオイルを流し出します。給油は、給油口より検油ゲージの規定量まで入れてください。

取扱いの注意

- ●オイルの量はエンジンを停止して調べてください。
- ●給油するときは、本機を必ず水平にして行ってください。
- ●エンジンが熱いうちはおこなわないでください。
- ●熱いオイルが体にかかると火傷するおそれがあります。
- ●エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。
- ●給油するオイルは、必ず規定のオイルを使用してください。
- ●オイルの点検・交換作業後はドレンプラグや給油口の蓋は確実に締付けてください。

ミッションオイル

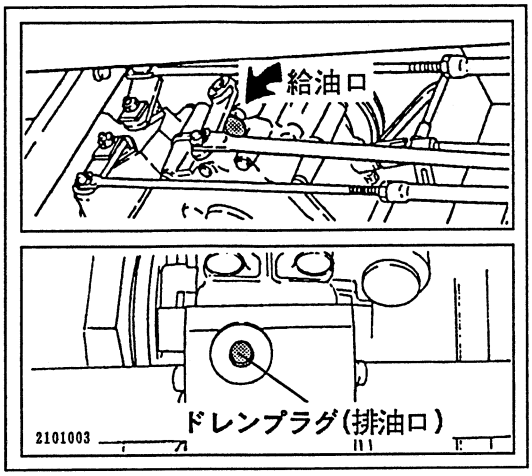
[走行ミッションオイル]

点検

油もれのないことを調べてください。

交換

走行ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出します。給油は、規定量(6.0 ℓ)入れてください。



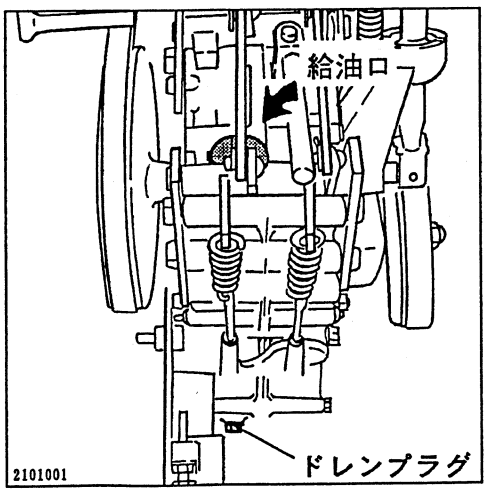
[ウインチ用ミッションオイル]

点検

油もれのないことを調べてください。

交換

ウインチ用ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出します。給油は、規定量(1.5 ℓ)入れてください。



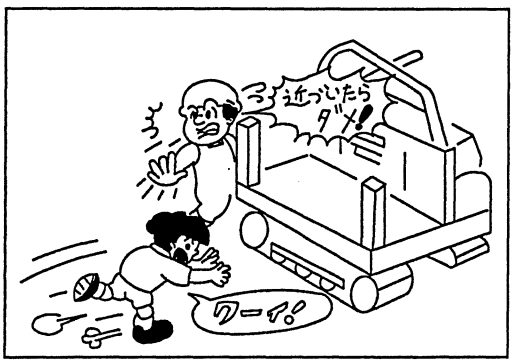
取扱いの注意

- ●ミッションが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。

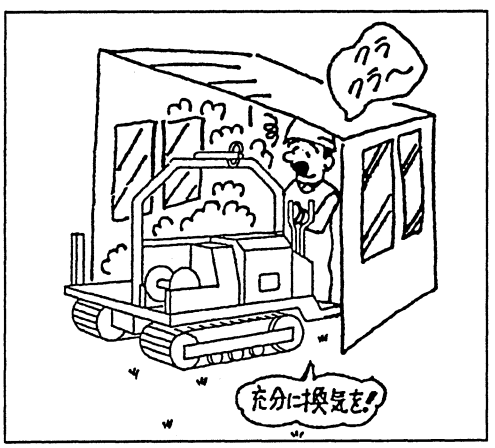
5.エンジンの始動・停止のしかた

⚠警告

●エンジン始動時は、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にして、周囲の安全を確認し、人や動物を近づけないでください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

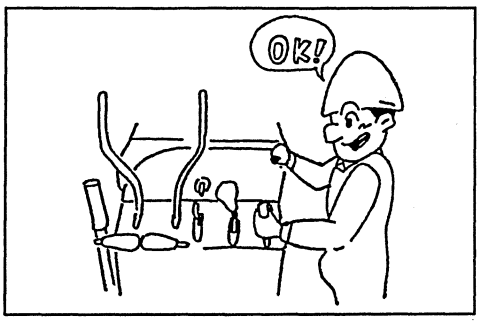


●締切った室内では、エンジンの始動および暖機運転はしないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、充分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。



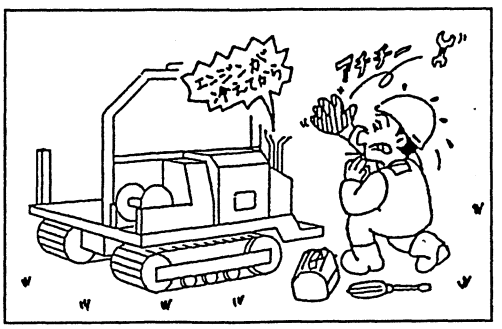
⚠注意

●機械を使う前と後には、かならず点検、整備をしてください。特に、走行クラッチレバー・駐車ブレーキレバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。



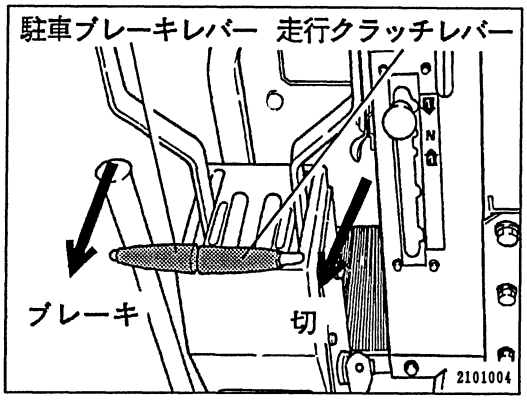
●暖機運転中は駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因で本機が走りだし、事故をおこすおそれがあります。

●運転中、エンジン、マフラーは高温になりますのでさわらないでください。また、エンジンが停止しても、すぐに手を触れないでください。エンジンやマフラーなどの高温部で火傷のおそれがあります。

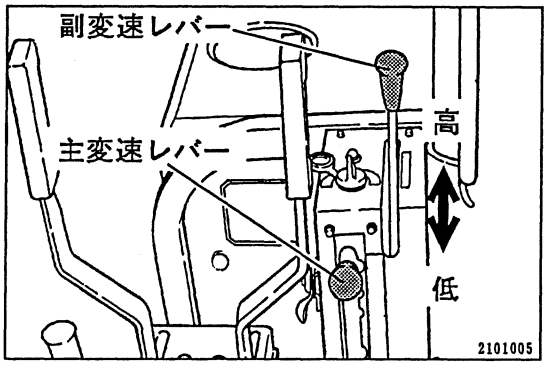


エンジンの始動のしかた

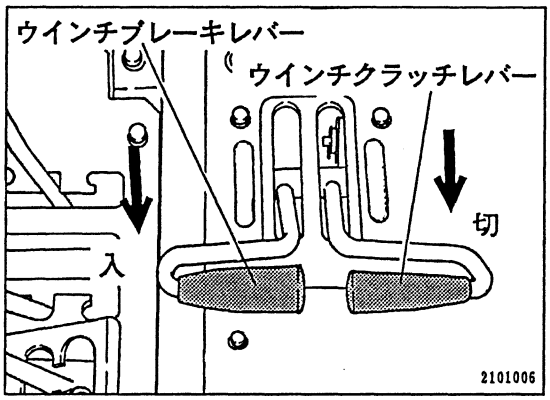
①走行クラッチレバーを「切」、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にします。



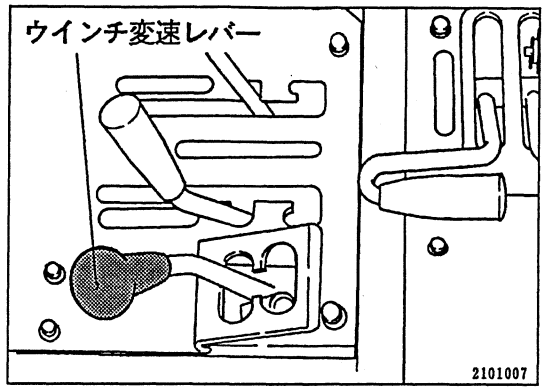
②主変速レバーを「N(中立)」位置にします。副変速レバーは「N(中立)」位置にしないでください。ブレーキがききません。



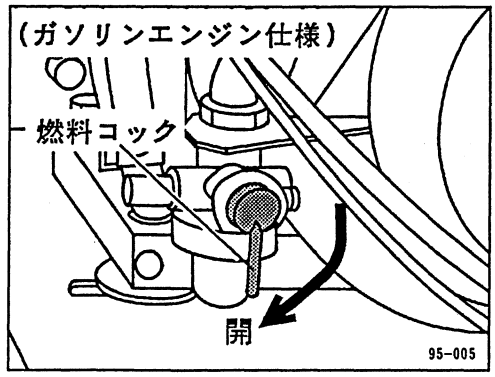
③ウインチクラッチレバーを「切」位置、ウインチブレーキレバーを「入」位置にします。

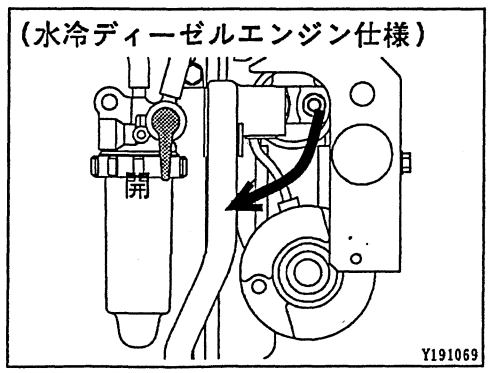


④ウインチ変速レバーを「N(中立)」位置にします。



⑤燃料コックを「開」にします。

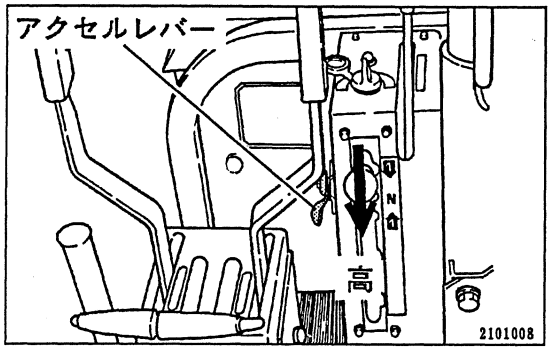




2

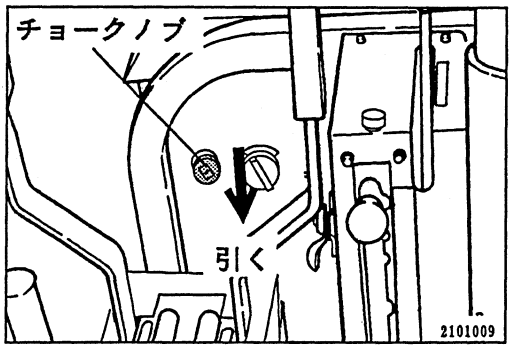
⑥アクセルレバーを「高」位置にします。

※水冷ディーゼルエンジンの場合は、「最高」位置にします。



[ガソリンエンジン仕様]

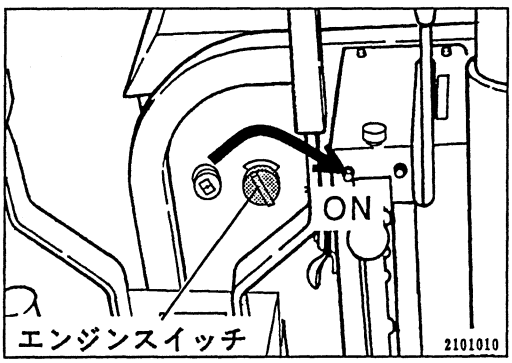
⑦チョークノブを引きます。



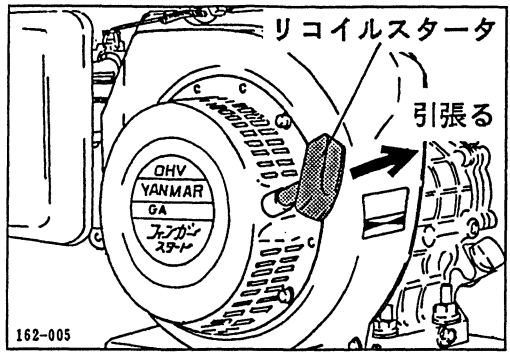
※エンジンが暖まっているときはチョークノブを引かないでください。

(リコイルスタータ仕様)

⑧エンジンスイッチを「ON」位置にします。



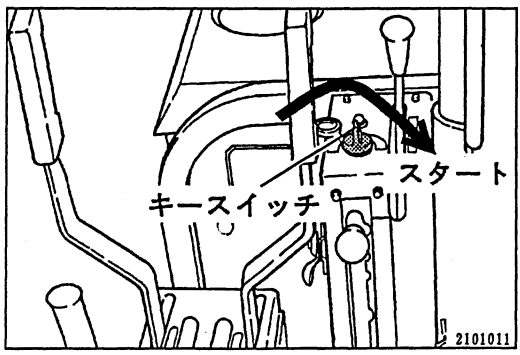
⑨リコイルスタータを勢いよく引張ります。



⑩エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークノブを徐々に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

(セルスタータ仕様)

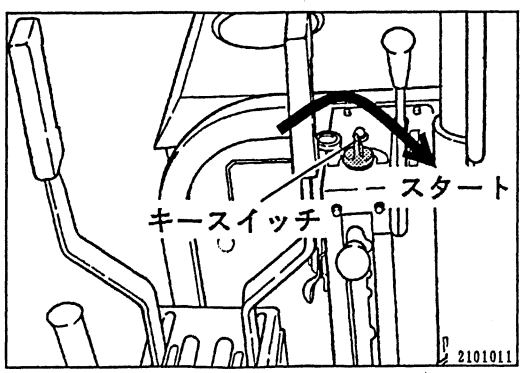
⑧キースイッチを「スタート」位置まで回します。



⑨エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークノブを徐々に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

[水冷ディーゼルエンジン仕様]

⑦キースイッチを「スタート」位置まで回します。



※エンジン始動後約５分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。（エンジンの暖機運転）

※走行クラッチレバーが「切」位置、ウインチクラッチレバーが「切」位置にないと、始動安全スイッチが働かずセルモータが回りません。確実に走行クラッチレバーを「切」位置、ウインチクラッチレバーを「切」位置にしてエンジンをスタートしてください。
（セルスタータ仕様）

取扱いの注意（セルスタータ仕様）

●約10秒以上セルモータを使ってもエンジンがかからない場合、いったんキースイッチを切り、１分間以上バッテリを休ませてから、再び始動させてください。

●エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「スタート」位置にしないでください。

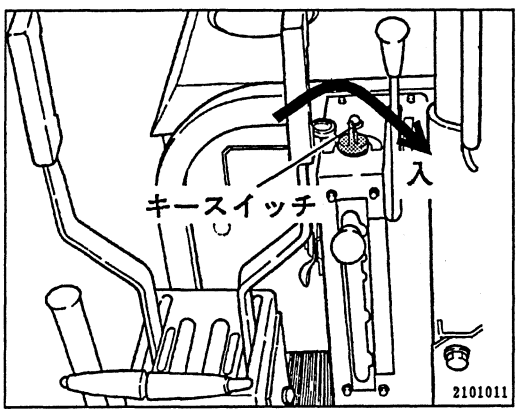
手始動のしかた

バッテリの容量不足でセルスタートができない場合は、次の要領で始動してください。

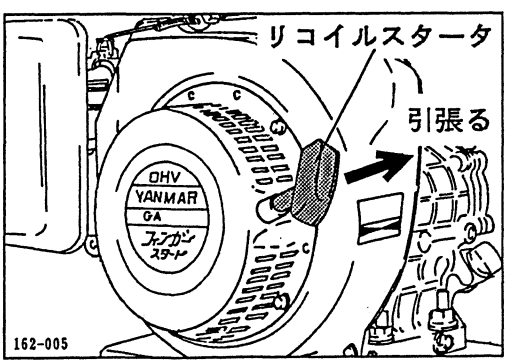
［ガソリンエンジン仕様］

①39ページの「エンジンの始動のしかた」の①～⑦までの操作をします。

②キースイッチを「入」位置にします。



③リコイルスタータを勢いよく引張ります。



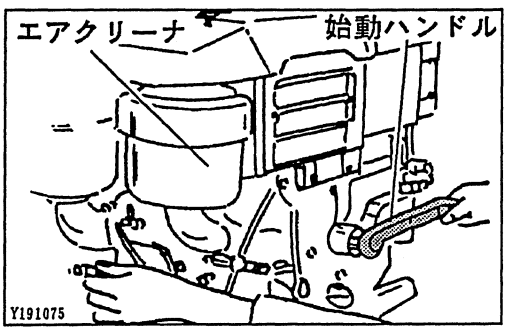
［水冷ディーゼルエンジン仕様］

①エンジンに付けてある始動ハンドルをはずし、始動軸に確実にはめこんでください。

②デコンプレバーを左上に引き始動ハンドルを右回り（時計の針のまわる方向）に４～５回まわして各メタル（軸受け）部に油をよく行きわたらせてください。

③アクセルレバーを「最高」位置にします。

④デコンプレバーを左上に引き、始動ハンドルを数回まわしてビリッ!ビリッ!と燃料の噴射する音を確認してください。噴射音がしないときは、空気抜きを行ってください。



⑤噴射音を確認したら、始動ハンドルを５～６回まわしてハズミ車に勢いをつけデコンプレバーを離し、力をゆるめずに引きつづき２～３回まわしてください。エンジンは始動します。

取扱いの注意

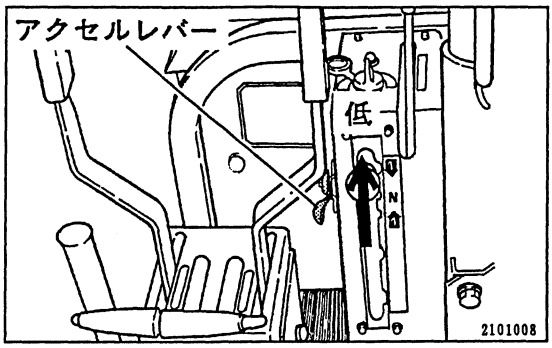
●始動ハンドルを回している途中で力をゆるめたりすると、圧縮がのり切れずに反発を受けたり、思わぬ不具合が発生します。必ず力をゆるめずに、力一杯まわしてください。

●エンジンが始動し始めるとハンドルは軸から完全に抜ける機構になっていますので始動しても、むりに抜いたりハンドルを手から、はなさないでください。

●始動直後、エアクリーナより煙が出てきた場合にはエンジンが逆転しているおそれがありますのですぐアクセルレバーを「最低」位置にしてエンジンを停止してください。

エンジンの停止のしかた

①アクセルレバーを「低」位置にします。

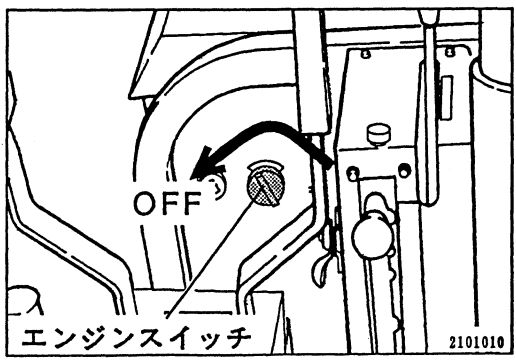


※水冷ディーゼルエンジンは、「最低」位置にするとエンジンは停止します。デコンプレバーでエンジンを停止しないでください。

［ガソリンエンジン仕様］

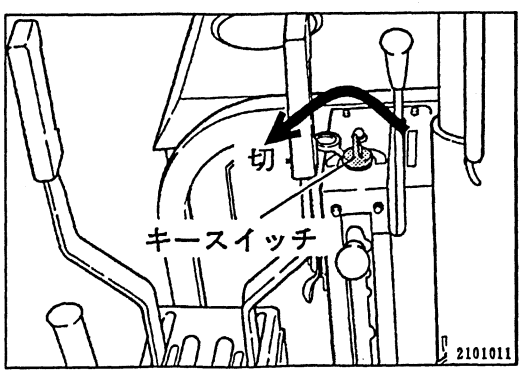
（リコイルスタータ仕様）

②エンジンスイッチを「OFF」位置にします。



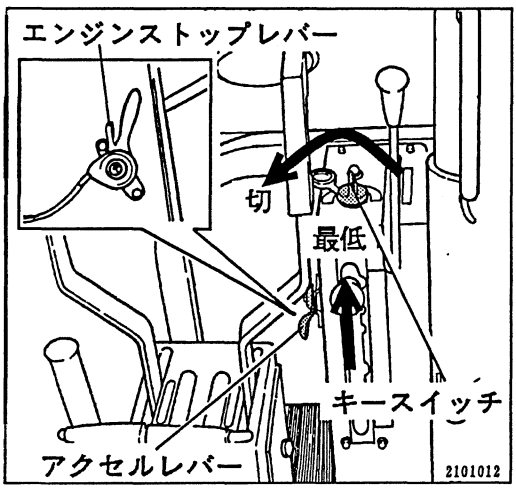
（セルスタータ仕様）

②キースイッチを「切」にしエンジンを停止します。

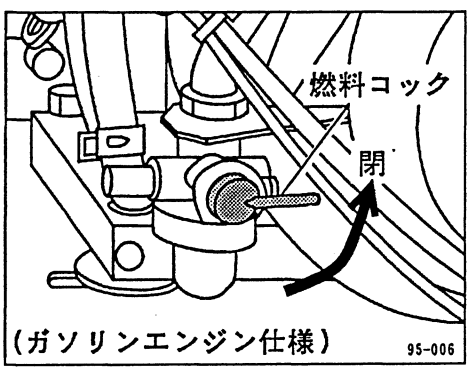


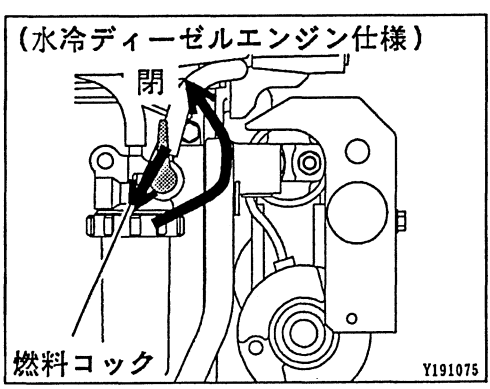
［水冷ディーゼルエンジン仕様］

②アクセルレバーについているエンジンストップレバーを握ってアクセルレバーを「最低」位置にしてエンジン停止したらキースイッチを「切」位置にします。



③燃料コックを「閉」にします。





6.発進・旋回・変速・停止のしかた

⚠危険

- 発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、充分にスピードを落としてください。また坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、充分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。
- 急傾斜地での斜め走行はしないでください。横転して事故をまねくおそれがあります。
- 後進時は低速にし、後方に充分注意してください。転倒などにより、けがのおそれがあります。

⚠警告

- 発進するときは、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。さもないと、思わぬ事故、けがをまねくおそれがあります。
- 本機を使用しないときは、必ずキーを抜いて安全な場所に保管してください。守らないと児童などが操作し事故を起こすおそれがあります。
- 走行中は、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置に入れないでください。ブレーキが発熱したり、摩耗して効かなくなり暴走して大変危険です。
- 急な下り坂では、サイドクラッチレバーの操作をしないでください。思わぬ方向に機械が旋回して転落などの事故をまねくおそれがあります。

⚠注意

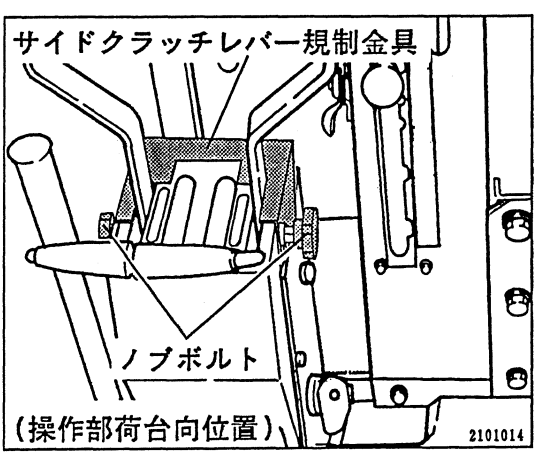
- ●小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。
- ●本機から離れるときには、平坦で安定した場所に置き必ず走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして、エンジンを止め、歯止めをしてください。守らないと本機が動きだし、事故をおこすおそれがあります。
- ●本機は、最大積載量が1000kgですので、労働安全衛生法により運転は、運転技能講習終了者に限られます。

運転姿勢を変えるときは

操作部荷台向位置と操作部荷台逆向位置の二通りの運転姿勢が選べます。運転姿勢を変える場合は、次の要領で行ってください。

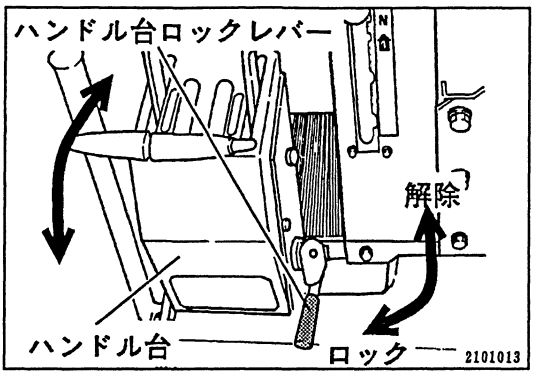
①サイドクラッチレバー規制金具のノブボルトを緩めて外します。

②サイドクラッチレバー規制金具を希望の向きに取付け、ノブボルトで締めてセットします。



※操作部荷台逆向位置のときはサイドクラッチレバー規制金具を反対側に取付けて、ノブボルトで固定してください。

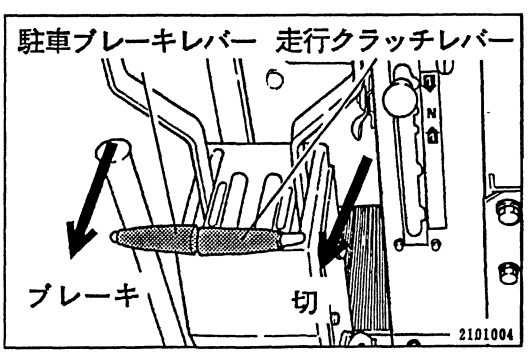
③ハンドル台ロックレバーを緩めてハンドル台を運転方向、体格に合わせて角度を調整します。



※調整後は確実にハンドルロックレバーでロックしてください。ハンドル台が動くと操縦不能となり事故のおそれがあります。

発進のしかた

①走行クラッチレバーを「切」位置、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にします。



②主変速レバーと副変速レバーで、希望の位置を選びます。

※副変速レバーは「高」位置か「低」位置のどちらかに確実に入れてください。中立ではブレーキがききません。

③アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。

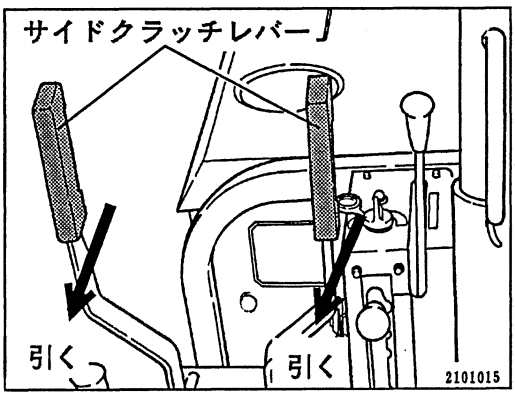
④駐車ブレーキレバーを「解除」位置にして走行クラッチレバーを「入」位置にして発進します。

旋回のしかた

⚠警告

●運転姿勢を変える場合は、サイドクラッチレバー規制金具を確実にセットしてください。思うように旋回できずに事故をおこすおそれがあります。

旋回しようとする側の安全を確認してから旋回したい方のサイドクラッチレバーを引くと旋回します。旋回後はサイドクラッチレバーを戻します。



変速のしかた

⚠危険

●歩行運転で後進する場合、高速運転は危険です。必ず変速位置を「後進１」にセットし、副変速レバーを「低」位置にしてください。障害物と本機の間に挟まれてけがをするおそれがあります。

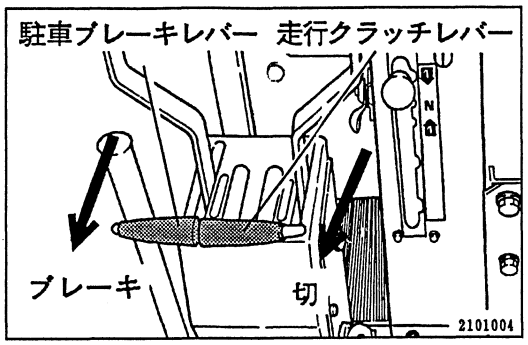
⚠警告

●主変速レバーを操作するときは、必ず走行クラッチレバーを「切」、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして操作してください。思わぬ方向に動きだし重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

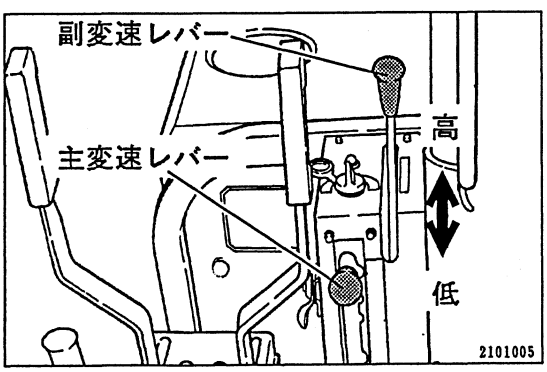
●急坂道やあゆみ板の上では、必ず変速位置を「前進１」、または「後進１」にセットし、副変速レバーを「低」位置にして低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。暴走して事故をおこすおそれがあります。

変速する場合は、次の要領で行ってください。

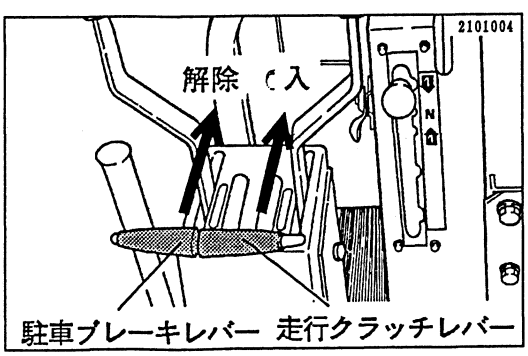
①走行クラッチレバーを「切」位置に駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にします。



②主変速レバーと副変速レバーを操作し、希望の変速に入れ換えます。



③駐車ブレーキレバーを「解除」位置にし、走行クラッチレバーを「入」位置にして発進します。



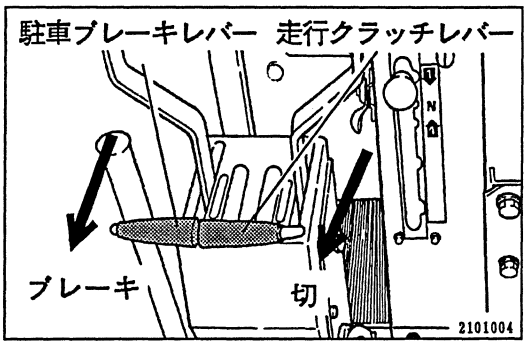
※走行中の変速は機械の破損の原因になりますのでしないでください。

※副変速レバーは絶対に中立にしないでください。中立にしますとブレーキがききません。

停止のしかた

①アクセルレバーを低速側に戻して、スピードを落とします。

②走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にすれば機体は停止します。

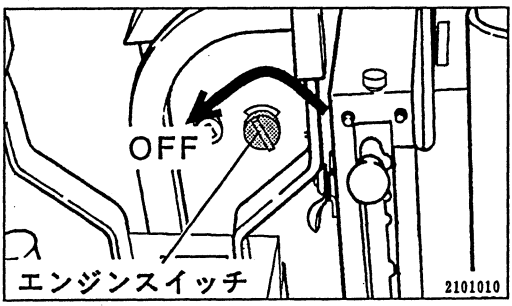


③主変速レバーを「N(中立)」位置にします。

[ガソリンエンジン仕様]

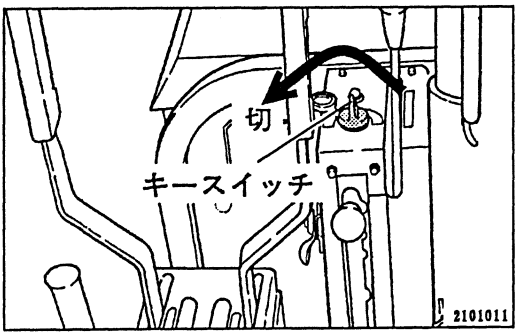
(リコイルスタータ仕様)

④アクセルレバーを「低」位置にします。エンジンスイッチを「OFF」位置にします。



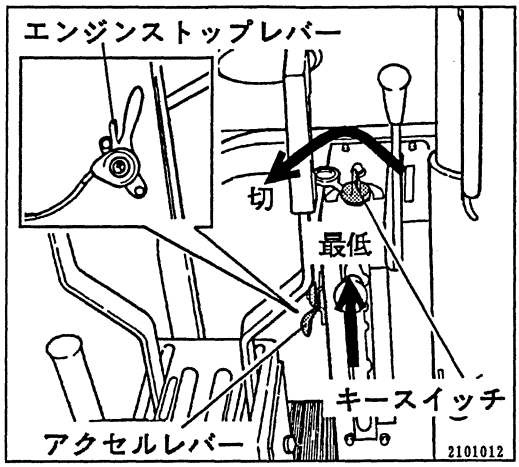
(セルスタータ仕様)

④キースイッチを「切」位置にしエンジンを停止します。

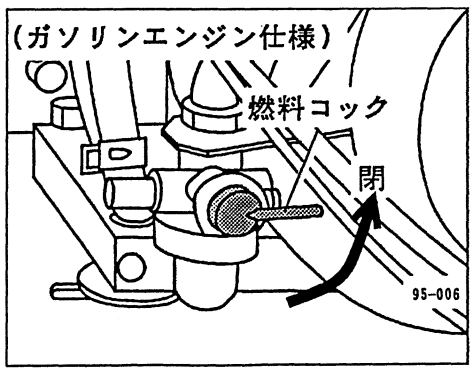


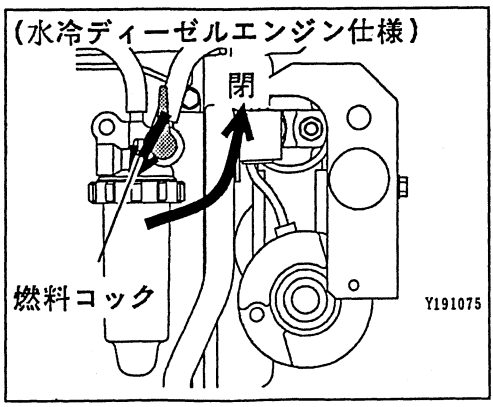
[水冷ディーゼルエンジン仕様]

④アクセルレバーについているエンジンストップレバーを握ってアクセルレバーを「最低」位置にしてエンジン停止したらキースイッチを「切」位置にします。



⑤燃料コックを「閉」にします。





駐車のしかた

⚠注意

●駐車するときは、平坦で堅固な場所に必ず走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず歯止めをしてください。

7.各部の操作のしかた

⚠警告

●ワイヤロープを最大引き出した場合、ウインチドラムに3巻以上残してください。

●最大積載量以上は荷物を積まないでください。機械が破損して思わぬ事故をおこすおそれがあります。

●積荷が高くなると機械のバランスが崩れやすく、また障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

●積載物は確実にロープを掛けて固定してください。荷くずれをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●積載物は荷台からはみ出さないようにしてください。荷くずれをおこし、転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●坂道では積荷の重量を軽くして、安全に走行してください。

●坂道では荷物の積込み、積降しはしないでください。本機の前後のバランスが崩れたり、荷くずれをおこし、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

⚠注意

●荷台には人を乗せたり、荷台に乗って運転したりしないでください。転落などにより、おもわぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

●ワイヤロープなどは常に点検し、摩耗したり損傷した場合には、直ちに交換してください。

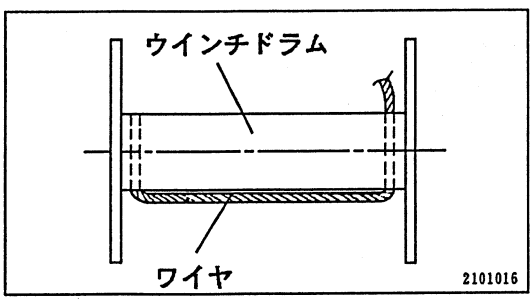
●ワイヤロープの直下、または作業索などの内側に作業者を立入らせないでください。

●ワイヤロープの安全係数は定められた値以上のものを使用してください。

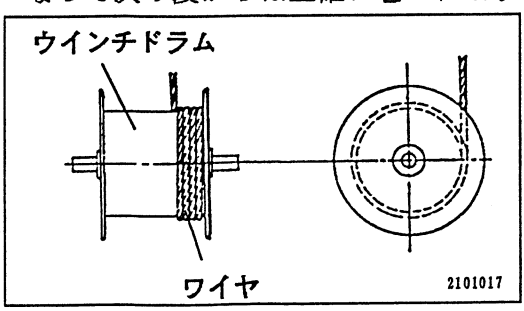
●運転者は運転中、または荷を吊ったままで運転位置からはなれないでください。

ワイヤの取付けかた

①ワイヤは下図のように通してください。



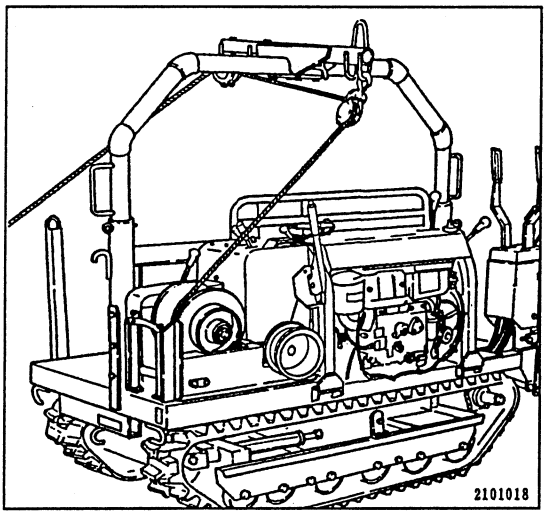
②ワイヤドラムに巻くときは下図のようにして最初の1段目(地巻)を強く引張って平均にまきますと、これが基礎になって次の段からは正確に巻かれます。



※地巻を雑にまきますと、その後は一方だけに重なったり食い込んだりして甚だしい摩耗をおこし、押し潰されてワイヤの寿命を縮めます。

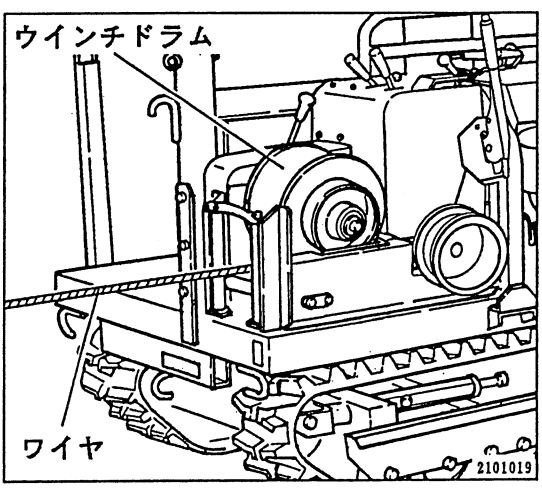
釣上げポールを使用するときは

ウインチポールは鳥居式で、ピンの抜き差しで前後７箇所、上下３段の調節ができます。
このウインチポールは、荷台へ積込む為のポールです。
ポールの釣り上げ能力は最大200kgです。



直引きするときは

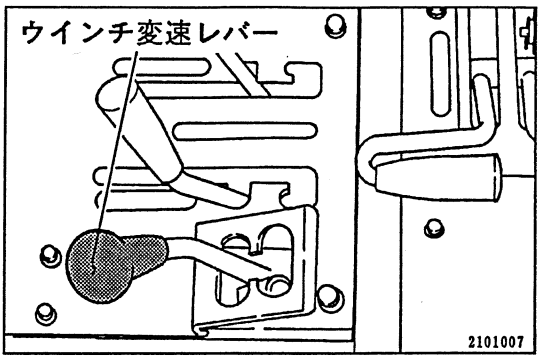
ウインチドラムで直引きする場合は車体が動かないようにワイヤ等で固定してください。
直引き能力は最大800kgですので、それ以上は機械の故障や折損の原因となります。



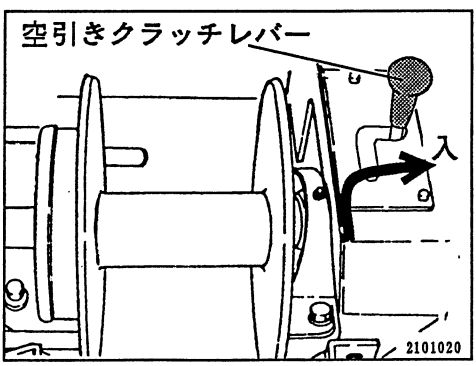
※巻上げ中の変速操作は行わないでください。

ウインチドラムの巻取、巻戻しをするとき

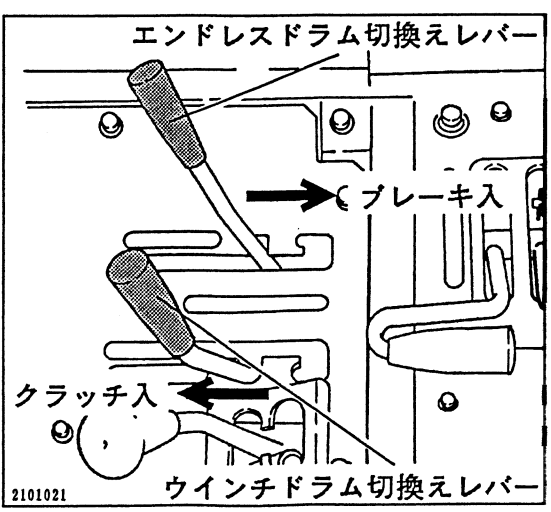
①ウインチ変速レバーを希望の所へ入れます。



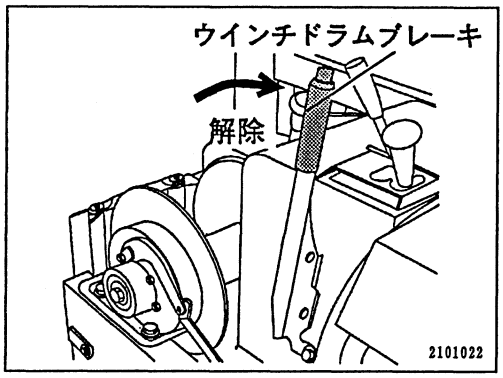
②空引きクラッチレバーを「入」位置にします。



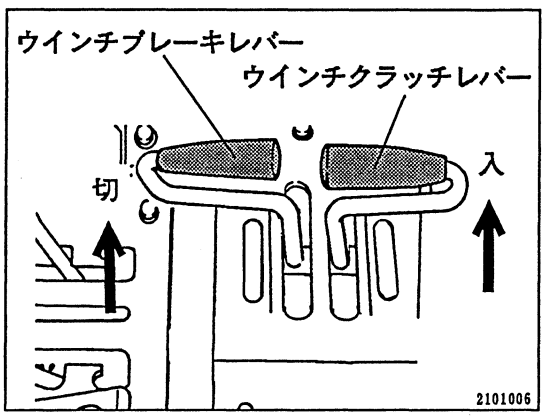
③ウインチドラム切換えレバーを「クラッチ入」位置にします。エンドレスドラム切換えレバーを「ブレーキ入」位置にします。



④ウインチブレーキレバーを「切」位置にしウインチドラムブレーキを解除します。



⑤ウインチクラッチレバーを「入」位置にするとドラムが回転します。

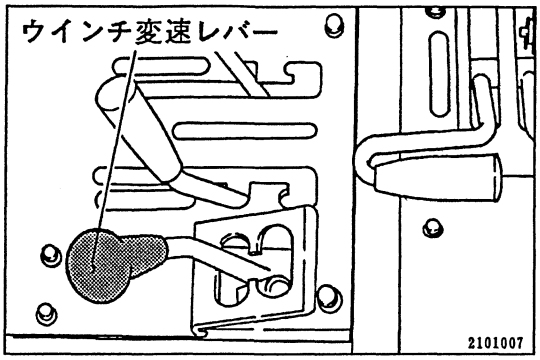


⑥ウインチクラッチレバーを「切」位置に、ウインチブレーキレバーを「入」位置にするとドラムの回転は停止します。

※ウインチドラム空引きクラッチレバーを「切」位置にするとワイヤの引出し作業が楽に行えます。

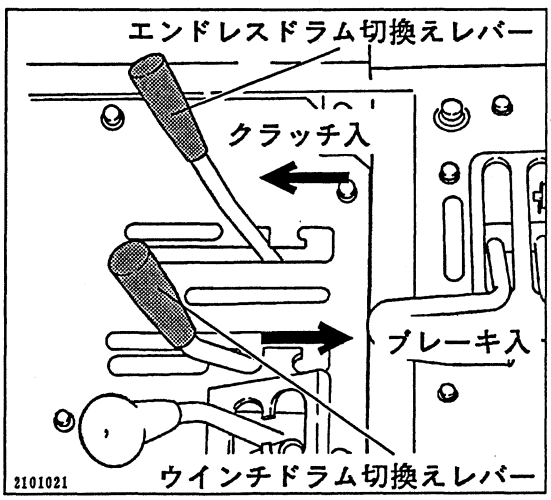
エンドレスドラムの巻取、巻戻しをするとき

①ウインチ変速レバーを希望の所へ入れます。

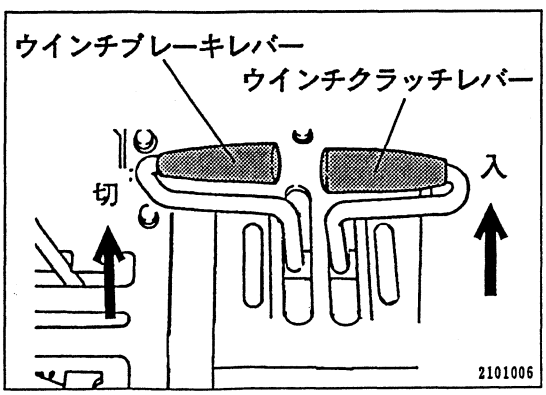


②ウインチドラム切換えレバーを「ブレーキ入」位置にします。

③エンドレスドラム切換えレバーを「クラッチ入」位置にします。



④ウインチブレーキレバーを「切」位置にします。
ウインチクラッチレバーを「入」位置にするとドラムが回転します。

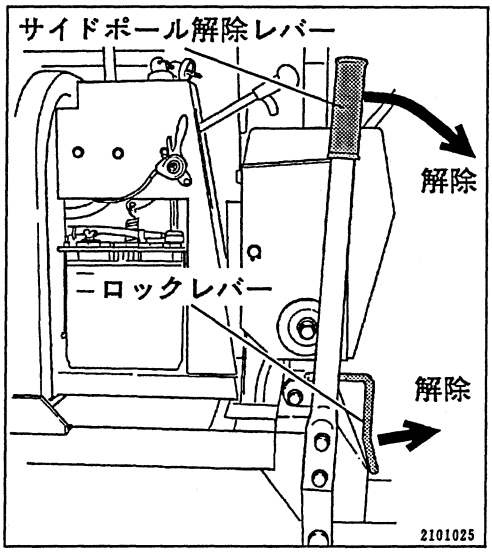


⑤ウインチクラッチレバーを「切」位置に、ウインチブレーキレバーを「入」位置にするとドラムの回転は停止します。

木材を降ろすとき

積載した木材を荷台より降す場合は次の要領で行ってください。

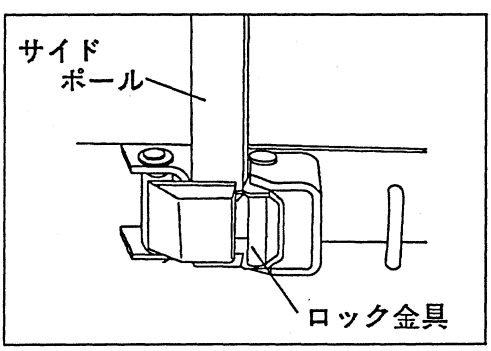
①ロックレバーを解除します。



②サイドポール解除レバーを座席側へ引くと外側の２本が倒れます。

サイドポールをセットするとき

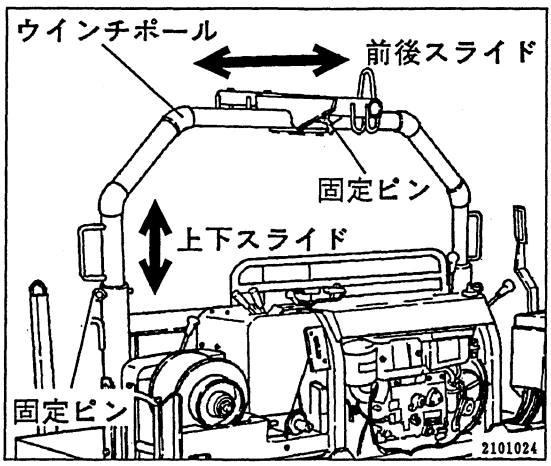
ロック金具をロック位置に、サイドポール解除レバーをロック状態にし、サイドポールを差込みます。



※セット後、完全にロックされているか確認してください。

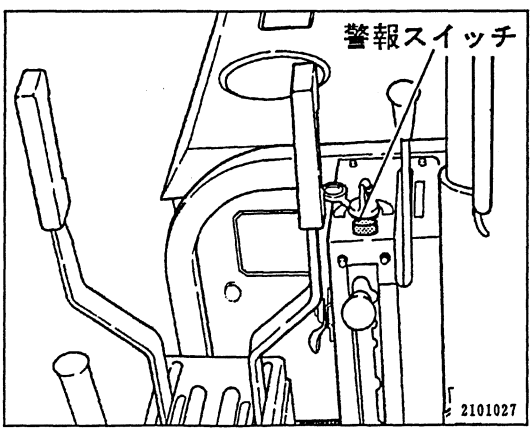
釣上げポールの調節は

ウインチポールは作業条件に合わせて調節ができます。
固定ピンを抜き、前後上下にスライドさせ、所定の箇所でピンを差込んでください。前後には７箇所、上下には３段の調節が可能です。



警報器の鳴らしかた

運転者から、他の作業者への合図に使用します。警報スイッチを押すと、ブザー(警報器)が鳴ります。



※リコイルスタータ仕様は、エンジンが始動していないと鳴りません。

※セルスタータ仕様は、キースイッチが「入」で鳴ります。エンジン停止中に連続して鳴らすとバッテリが上がりますので、エンジンを始動して使用してください。

林内作業車を使用する集材作業

【 1.準　　備 】

①ウインチロープは、機種の機能・性能に合ったワイヤロープを使用すること。

②ウインチロープの末端にフックを取付けること。

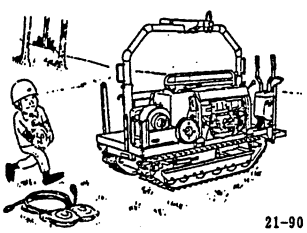
③ウインチロープは、ドラムに乱巻きにならないよう巻付けること。

④スリングロープは、取扱う材の径を考慮して準備すること。

⑤材を引寄せるとき、林内作業車が転倒したり、本体が引き込まれたりしないよう、立木などに固定するロープ類を準備すること。

⑥材を引き込むときのブロック類を準備すること。

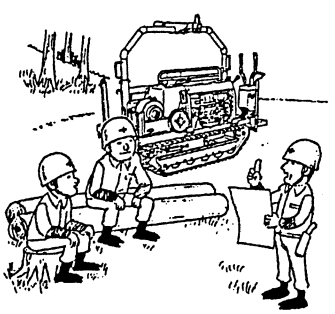
⑦材を集材し荷台に積込んだとき、材の転落防止のために手動式荷締器などを準備すること。



21-90

【 2.作業前の打合せ 】

作業の開始に当っては、関係者で作業の手順、作業者の配置、作業上特に注意すべき事故の防止、作業の合図、その他作業を進めるうえで必要な事項について打合わせてから作業に着手すること。

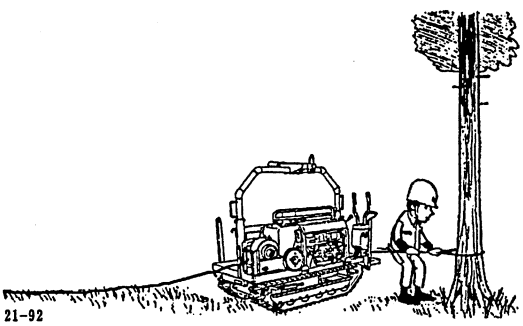


21-91

【 3.集 材 作 業 】

（１）. 林内作業車の固定

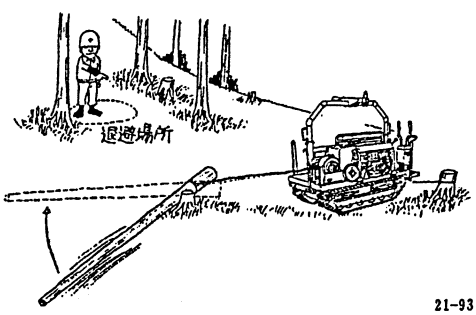
①小型の林内作業車は、一般的に軽量であるため、ウインチで材を直引きすると機体が動くことがありますので、立木や、伐根にワイヤロープなどで堅固に固定すること。



21-92

（２）. 信号者の退避場所の選定

①退避場所は、材が転動しても安全が保たれる場所であること。
退避場所は、できるだけ斜面の上方とし、材が引寄せ中はずれて転落したり、根株などの障害物に当たってはねたり、支点となって振れたりしても安全な距離の場所に決めましょう。

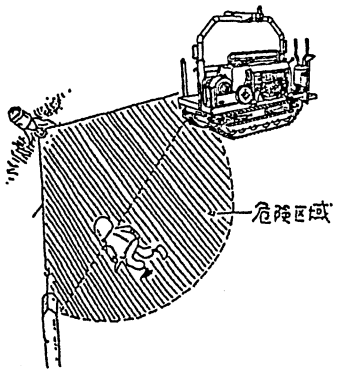


21-93

荷掛けした材を引寄せるときや材が荷卸し場に入るときなどに、退避場所の選定が不適切であったり、退避が不充分なために災害を受けることがあります。指差呼称をして確認しましょう。

②末木、枝条などのはね返り、木片、浮石の飛来、落下などのおそれのない場所であること。

③ウインチロープの内角側の危険区域でない場所とすること。



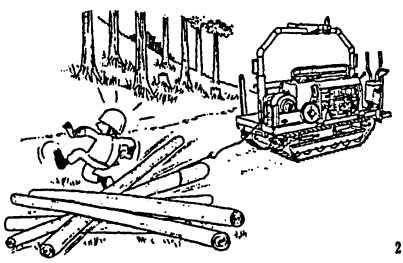
21-94

（３）.荷掛け作業

①林内作業車のけん引力に応じた重量の材の荷掛けを行うこと。

②荷掛けは、林内作業車に近い材から行うこと。

③重なり合っている材は、原則として上の材から荷掛けを行うこと。


21-95

④荷掛け者は、足場に注意し、転動するおそれのある材の上には乗らないこと。

⑤荷しばりは、元口に近い部分に行うこと。

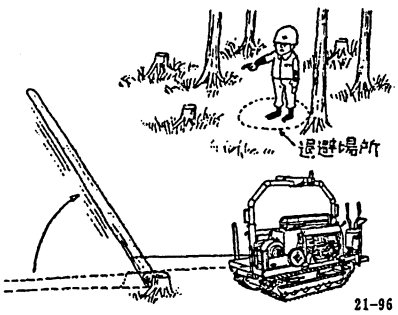
荷しばりは、元口に近くに行わないと、引寄せたときに材の振動が大きく、また、伐根などの障害物に引っかかりやすいので注意しましょう。

⑥スリングロープには、原則として材を１本づつ荷掛けすること。

２本以上の材を１本のスリングロープに荷掛けすると、引寄せ中にスリングロープに接しないものは、抜けることがあります。また、障害物にかかりやすくなります。

⑦急斜面での荷掛作業は山側で行い、常に足場に注意すること。

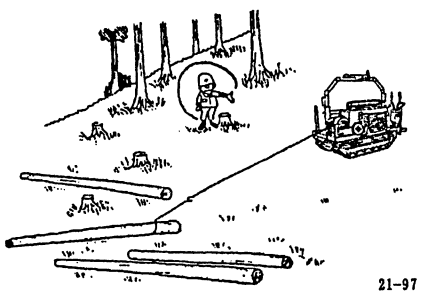
⑧材の引寄せ前には、材の反ばつ、飛来の危険はないかを確認したうえ「退避よし」と指差呼称をすること。



21-96

⑨荷掛け者は、運転者と緊密な連携のもとに作業を行うこと。

特に、運転者に対する引寄せの合図は、荷しばりが終わり、あらかじめ選定しておいた退避場所に退避してから、行いましょう。

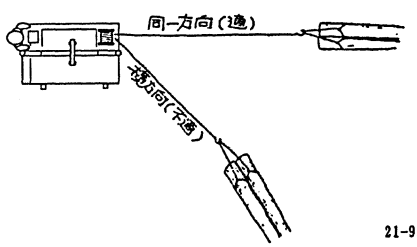

21-97

（４）.引寄せ作業

１）.ウインチによる引寄せ

①引寄せ作業のときは、林内作業車の車体と材を引寄せる方向が同一になるようにし(林内作業車を材に正対させる。)また、引寄せ材が根株などの障害物に掛からない場所に位置させること。

（急斜面での上方の材の引寄せ作業するときを除く。）

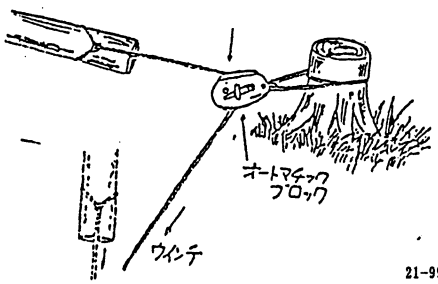


21-98

車体の斜め後方からの引寄せ作業は、林内作業車の横滑りや転倒の危険が生じます。またウインチロープが片巻きとなり、ウインチロープの引出し困難となり、作業能率も落ちることになります。

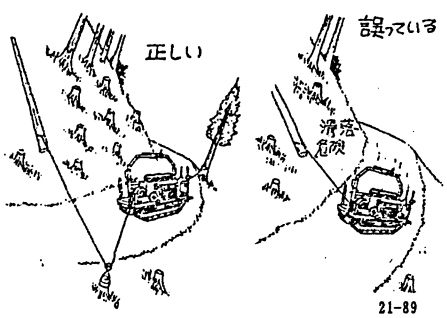
②材の引寄せの距離は、あまり長くとらないこと。
引寄せの距離が長いと障害物に掛かり能率も悪くなります。

③材の引寄せに際して、集材木を迂回して引寄せる必要がある場合には、オートマチックブロックやガイドブロックを利用して、無理のない作業に努めること。

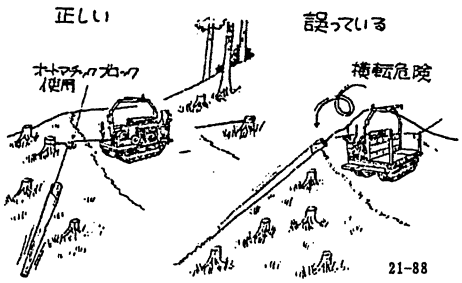


ア.伐根、立木にひっかかったまま、ウインチを巻取ることは大変危険です。このような場合は、オートマチックブロック等を利用して障害物を回避しましょう。

イ.急斜面の上方から材を引きおろす場合は、オートマチックブロック等をとり迂回して集材するようにしましょう。

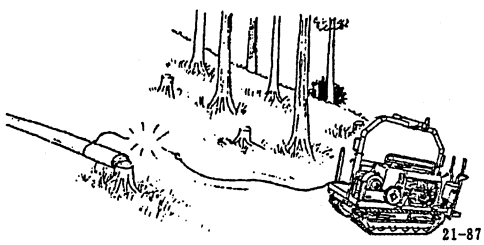


ウ.急斜面の下方から材を引上げる場合は、材の鼻上げにより抵抗が少なく、無理のない集材が可能です。そのためにガイドブロックを上手に利用しましょう。



ガイドブロックまたは、オートマチックブロックを使用すると、ウインチロープに内角ができます。ウインチロープの緊張時には、危険区域へ立入らないようにしましょう。

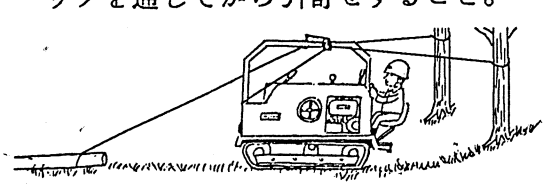
④引寄せ中の材が伐根などの障害物にひっかかったときは、荷掛者は運転者と緊密な連携をとり、障害物を避けるか、取除くことができるものは取除いた後、引寄せを行うこと。



伐根などの障害物にかかった材を、ウインチのけん引にまかせて引寄せると、材が大きく転動したり、材の折損、スリングロープの切断など大きな災害のもととなります。
障害物を取除くときは、ウインチロープをゆるめ材が安定したことを確かめてから行いましょう。

2)ポールを使用する場合の引寄せ

ウインチロープを直接ポールのガイドブロックを通して引寄せすると、ポールの上部に力がかかり、林内作業車が転倒するので必ずポールの上部に控索を2本以上取付けること。
なお、林内作業車のポールに直接張力がかからないようにウインチロープは車体の後方などに取付けたガイドブロックを通してから引寄せすること。



【4.積込作業】

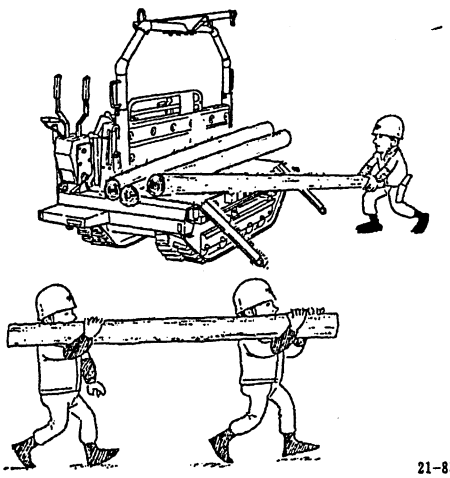
（1）積込み

1）人力による積込み

①材を持上げたり、担うときは体力に合わせ、正しい姿勢で作業を行うこと。

②両手で材を抱えたり、持上げたり、卸すときは、指が挟まれないよう充分注意すること。

③材を2人で支えたり、担ったりして積込むときは、必ず合図をし、周囲の安全を確認して実行すること。



21-85

④スリ棒を使用して積込む場合は、枝付き材、曲り材、枯損材などは使用しないこと。また、作業中スリ棒が動揺しないよう固定すること。

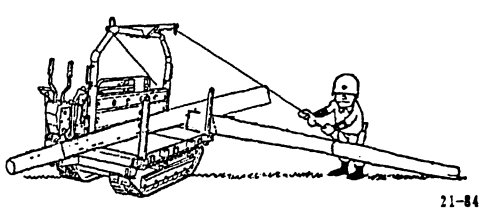
⑤元口径と末口径の差が大きい材を積込むときは、交互に積むこと。

⑥積荷を安定させるため、荷台の両側に立てる「建て木」（鋼製または木製）は、必要な強度を有したものを使用すること。

2）ウインチによる積込み

①ウインチを操作する者と、人力作業を行う者は、的確な合図法を決め、相互に緊密な連絡をとり合うこと。

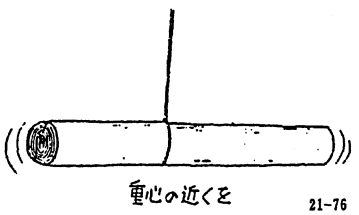
②材の木口に近い部分にウインチロープのフックをかけて低速で引寄せ、荷台に材の鼻を乗せ、次にフックを材の中央部分にかけて荷台の上に積込むこと。



21-84

③長尺材を積む場合は、林内作業車のバランスに注意して積込むこと。

④荷掛け位置は、重心点に近くとすること。荷掛け位置は、重心点に近いほど材は平衡に吊られ、吊上げどきの衝撃が少なく、材の旋回、荷卸しも安全確実で積込みが容易となります。

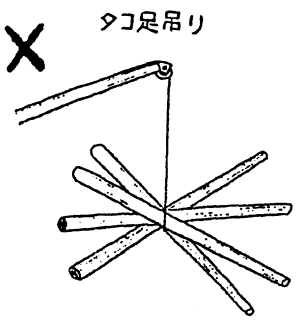


21-76

⑤集積材ややがら材は、上部の材から荷掛けすること。
積重なっている材の中抜きは、危険ですから、必ず上部の材から荷掛けをいたしましょう。

⑥運転者は材を吊上げたまま、操作場所を離れないこと。

⑦材をタコ足吊りにしないこと。



21-9a

⑧材を荷台におろすときは、他の作業者との連携を密にし、静かにおろすこと。
ブームは荷おろし位置の上で一旦停止し、横揺れしないことを確認してから合図を行い、静かにおろしましょう。

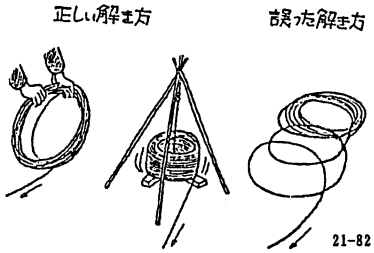
⑨荷はずしは、ウインチロープが完全にゆるんだことを確認してから行うこと。
スリングロープを抜取るときは、材に手を挟まれないように注意しましょう。また、クレーンを使用して抜取る場合は作業者が安全な場所に退避したことを確認してから行いましょう。

【 5.ワイヤロープの取扱い等 】

◎ワイヤロープ

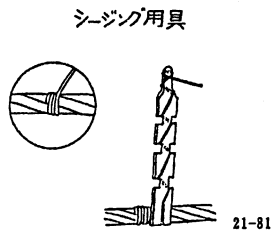
（1）解き方、切断

①ワイヤロープを解くときは、木枠または、コイルを回転して引きだし、キンクを作らないようにすること。



21-82

②ワイヤロープを切断するときは、原則としてシージングをしてから行うこと。
シージングはワイヤロープのよりのゆるみを防ぐために行います。シージングの長さは、ワイヤロープの径の３倍程度が標準です。

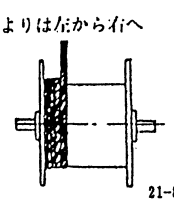


21-81

③給油
必要に応じ、ワイヤロープに給油すること。
ロープ油の役目は、潤滑と防錆のためです。給油によりワイヤロープの、疲労や摩耗が軽減され、ワイヤロープの寿命が長くなります。

（2）巻き方

ワイヤロープをドラムに巻付けるときは、ロープのよりに応じて正しく取付けること。
Zより が一般に使用されていますので、左から右へ巻きます。



21-80

地まきは、しっかりと巻いておくこと。
作業中、ドラムからワイヤロープを引き出すときは、最小３巻きは残すこと。
巻きが少ないと摩擦力が不足して、取付箇所がはずれることがありますので注意しましょう。

（3）アイ(へび口)加工

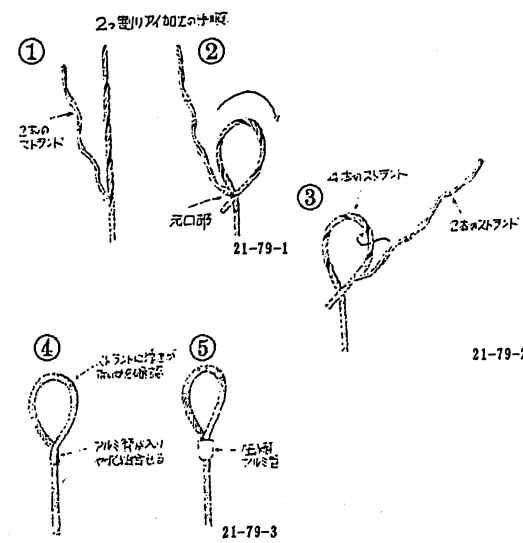
1）アイスプラスは差し数を充分に正しく巻込むこと。

①割差し(「かご差し」ともいいます。)
巻差しとも、丸差し３回、半差し２回又は、丸差し４回、半差し１回以上とし、入念に加工することが必要です。

②巻差しの方が加工しやすいが、材が回転したときよりがもどり、スプライスが引抜けやすいので、割差しの方が望ましいといえます。

2）事業場で圧縮止め加工をするときは、ワイヤロープを２つに割り、アイを組んでから行うこと。

工場で圧縮止め加工が行われ、強度が保証されているものは問題ありませんが、現場などで圧縮止め加工を行うときは、図のように２本のストランドをほどき、４本のストランド側に巻きつけてアイを作り、端末を巻差しにして、圧縮加工をすることが必要です。

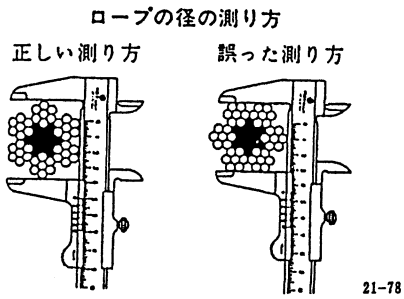


(4)ワイヤロープの使用制限

ワイヤロープは、次の状態にあるものは使用しないこと。

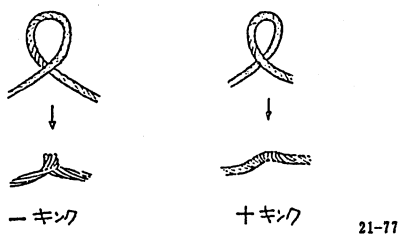
①ワイヤロープ1よりの間において、素線数の10分の1以上の素線が切断したもの

②摩耗による直径の減少が公称径の7パーセントをこえるもの



③キンクしたもの

キンクとは、ワイヤロープがねじれて結節し、又は、これに準じた状態になったものをいいます。

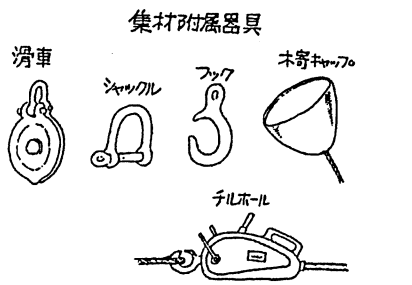


④著しい形くずれ又は腐食のあるもの

◎集材用付属器具

滑車、シャックル、チルホール等の集材用付属器具は使用するワイヤロープの径に応じたものを選択すること。

使用に当たっては、ヒビ、ワレ等のないものを選びましょう。



8.坂道での運転のしかた

⚠警告

- あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道を走行中は、変速をしないでください。
- 坂道で主変速レバー・副変速レバーを「N(中立)」位置にしないでください。
- 坂道では駐車しないでください。守らないと本機が坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。
- 坂道では、スピードに充分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。
- 上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくり発進してください。急発進すると、前側がはね上がり大変危険です。
- 変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。やむを得ず坂の途中で停車する場合は、走行クラッチレバーを「切」位置にして駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてくだください。

9.トラックへの積込み・積降ろしのしかた

⚠警告

●積込み、積降ろしの場所は、交通の安全が確保でき、平坦で安定した場所を選んでください。さもないと、思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックへの積込み、積降ろしは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための、サイドクラッチレバーの操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故をおこすおそれがあります。

●トラックはエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、「歯止め」をしてください。

●使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。

●本機に乗っての運転は厳禁です。

●誘導者は、機械の直前に立たないでください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●操作部荷台向位置にして歩行運転で、積込みは、「前進１」、積降ろしは、「後進１」で行ってください。さらに、アクセルレバーは「低」にし、エンジンブレーキを充分きかせて、ゆっくりと行ってください。守らないと転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●本機があゆみ板とトラック等の継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、充分に注意してください。転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックなどに積んで移動するときは、充分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに「歯止め」をしてください。さもないと、機械の転落や、運転席への突込みによる重大な事故やけがをまねくおそれがあります。

①周囲に危険物のない平坦な場所を選びます。

②基準に合ったあゆみ板を用意します。

《あゆみ板の基準》

あゆみ板は基準に合った、充分な強度のあるものをご使用ください。

●長さ…トラックの荷台高さの４倍以上。

●幅……本機のクローラ幅に合ったもの。

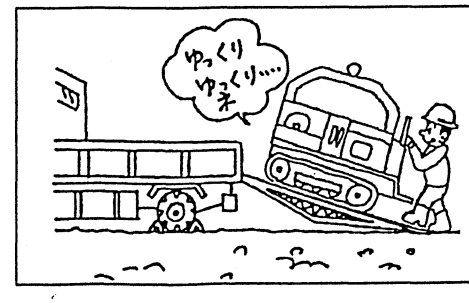
●強度…本機の重量に充分たえられるもの。

●表面…すべらないように処理してあるもの。

③あゆみ板のフックを、トラック荷台と段差のないように確実に掛けてください。

④左右のクローラがあゆみ板の中央に位置するように、本機をセットしてから積込み、積降ろしを行ってください。

⑤操作部荷台向位置にして歩行運転で、積込みの場合は「前進１」で、積降ろしの場合は「後進１」で行ってください。



作業後の手入れについて

⚠危険

●燃料を抜くときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。エンジンを止め、エンジン、マフラーなどの高温部が冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。

●シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが充分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

●お手入れは、平坦な安定した場所で行ってください。さもないと機械が転倒して、思わぬけがをするおそれがあります。

●格納時は平坦で安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず歯止めをしてください。本機が自然に動いて事故になります。

⚠注意

●お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

●近くに燃えやすいものがあれば取除いてください。火災の原因になります。

1.作業後の手入れ

その日の内に水洗いし、水洗い後は良く水分をふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷりさしてください。

●エアクリーナについた土やホコリを落とします。リコイルスタータ部の網目を点検し、わらくず、草などは必ず取除いてください。エンジン・マフラー等にわらくずや枯草などが堆積したまま運転しますと火災の原因になることがありますので取除いてください。

※水洗いをするときは、エアクリーナの吸気口に水が入らないようにしてください。
電装品には水をかけないようにしてください。故障の原因となります。

2.長期間使用しない場合の手入れ

⚠警告

●格納する場合はバッテリを取外し、キーを抜取り保管してください。守らないと事故をおこすおそれがあります。

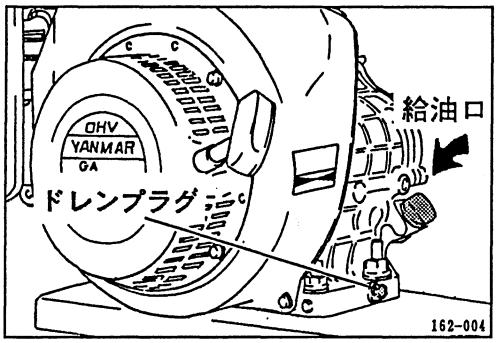
⚠注意

●格納する場合は走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。使用時にクラッチが切れなくなり、事故をおこすおそれがあります。

[ガソリンエンジン仕様]

①エンジンを低速で運転（約５分間）し、停止させます。

②エンジンが暖かいうちにエンジンオイルを抜出して、新油と交換してください。



※エンジンが熱い間は作業しないでください。

③点火プラグを外し、点火プラグの穴からエンジンオイルを10cc位入れます。

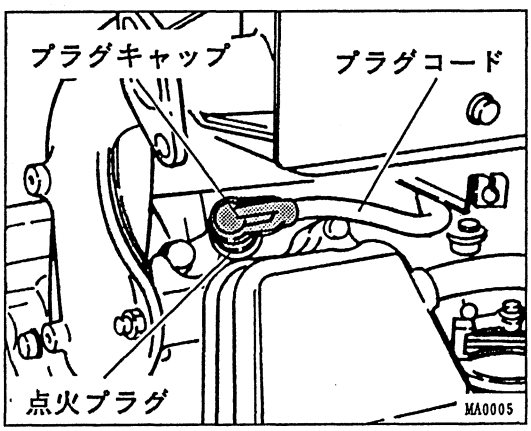
④リコイルスタータを２～３回引きます。（エンジンを始動させてはいけません。）

⑤再び点火プラグを取付けて、リコイルスタータを軽く引き、重たくなった所（圧縮のある）で止めておきます。

※圧縮のある位置では、吸排気弁が閉じており、湿気によるエンジン内部の発錆を防ぎます。

⑥プラグキャップ・プラグコードは確実に差込んでください。

⑦燃料タンク・キャブレタ・燃料こし器の中の燃料は抜取っておいてください。

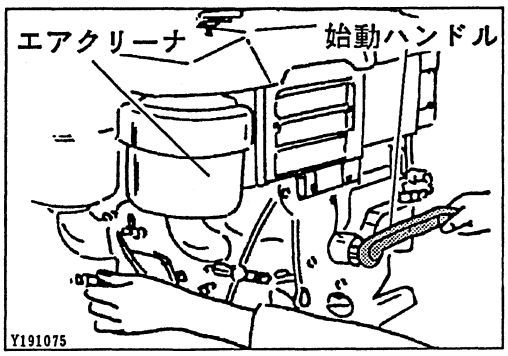


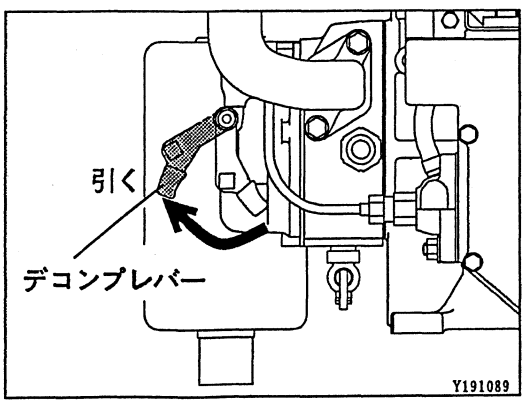
[水冷ディーゼルエンジン仕様]

①エンジンを低速で約５分間運転し停止させます。

②エンジンが暖かいうちにエンジンオイルを抜出して、新油と交換してください。

③始動ハンドルで手回しして圧縮の手ごたえのある位置になったとき、デコンプレバーを引き圧縮を抜いて、更にゆっくりと始動ハンドルを回し、噴射音（ビリッという音）がした位置でとめます。（これで、吸気弁と排気弁が閉じた状態になり、エンジン内部は錆がでないようになります。）





燃料抜きの要領

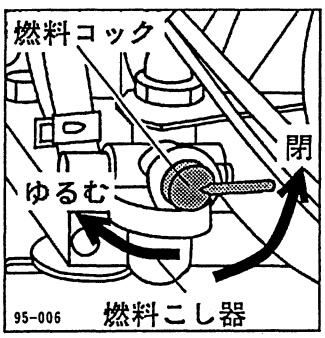
［ガソリンエンジン仕様］

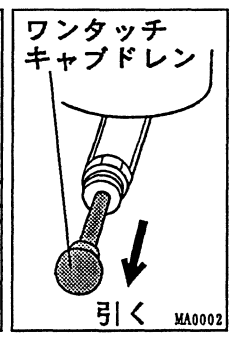
①燃料タンク内の燃料を抜きます。

②燃料コックを「閉」にします。

③燃料こし器内の燃料を抜きます。

④ワンタッチキャブドレンのつまみを引き、キャブレタ内の燃料を抜きます。（燃料が出なくなるまで引きつづけてください。）





取扱いの注意

●ガソリンは一ケ月以上放置すると「気化」「酸化」してエンジンの始動不良や運転不調をひきおこします。機械を保管する場合は、必ず上記の要領で燃料タンク・燃料コック・キャブレタ内のガソリンを抜いてください。

エンジン以外の手入れ

①乾燥した風通しの良い所で、クローラの下に板を敷いてください。

②外部の錆やすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

③バッテリを完全充電し本機から取外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。

④走行クラッチレバーはVベルトの変形を防止するため、「切」位置にしてください。

取扱いの注意

●バッテリは使わなくても自然放電します。1ケ月に1度は充電器で完全充電してください。 （72ページ参照）

仕様

形式			SC10W2	SC10W2-E	SCD10W2-E
タイプ			前後進クローラタイプ		
機体寸法	全長 (mm)		2200		
	全幅 (mm)		1170		
	全高 (mm)		2200(最大延長時)		
重量 (kg)			745	750	785
荷台	内長 (mm)		1755		
	内幅 (mm)		600		
	内高 (mm)		550		
	荷台形式		シマ鋼板張り平荷台		
最大積載量 (Kg)			1000		
エンジン	形式		GA220SCK	GA280SECK	NFAD8ECK
	最大出力 (ps)		7.7	9.5	8.0
	定格出力 (ps)		5.5	7.0	7.0
	始動方式		リコイル	セルスタート	
走行部	方式		両持障害物侵入防止形、防泥密閉シール入ベアリング支持形		
	クローラ規格		230㎜幅×72㎜ピッチ平行ハイラグゴムクローラ		
	トレッド (mm)		750		
	接地長 (mm)		1070		
走行速度	前進 (km/h)	1速	1.15		1.09
		2速	1.93		1.83
		3速	2.56		2.42
		4速	4.28		4.05
	後進 (km/h) ※1.歩行運転の後進は危険です。歩行運転時この変速は使用しないでください。	1速	1.29		1.22
		2速	2.16		2.04
		3速	2.65		2.50
		4速	4.43 ※1		4.19 ※1
主クラッチ形式			ベルトテンション		
ブレーキ形式			内部拡張式		
操向方式			湿式ディスクブレーキ		
ウインチ部	ワイヤ巻込容量		φ8㎜×100m		
	直引能力 (kg)		800		
	ポール釣上能力 (kg)		200		
	ウインチドラム巻込速度 (m/min)	正	(1速) 5.3~19.2	(2速) 13.3~48.2	
		逆	(1速) 5.3~19.2	(2速) 13.3~48.2	
	エンドレスドラム巻込速度 (m/min)	正	(1速) 34.5	(2速) 87.0	
		逆	(1速) 34.5	(2速) 87.0	

※．この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

その他

主要消耗部品

No.	品 名	部品番号	備 考
1	VベルトSB46 (走行用)	25123-004601	2本 (ガソリンエンジン仕様)
2	VベルトSB48 (走行用)	25123-004801	2本 (水冷ディーゼルエンジン仕様)
3	VベルトSB62 (ウインチ用)	25123-006201	(ガソリンエンジン仕様)
4	VベルトSB65 (ウインチ用)	25123-006501	(水冷ディーゼルエンジン仕様)
5	アクセルワイヤ	1N1110-51010	
6	サイドクラッチワイヤ (L)	1N1303-44040	
7	サイドクラッチワイヤ (R)	1N1303-44030	
8	チョークワイヤ	1N1277-51010	(ガソリンエンジン仕様)
9	クラッチワイヤ	1N1303-42000	
10	ブレーキワイヤ	1N1303-42010	
11	主変速ワイヤ	1N1302-41040	
12	副変速ワイヤ	1N1302-41110	

主要消耗部品

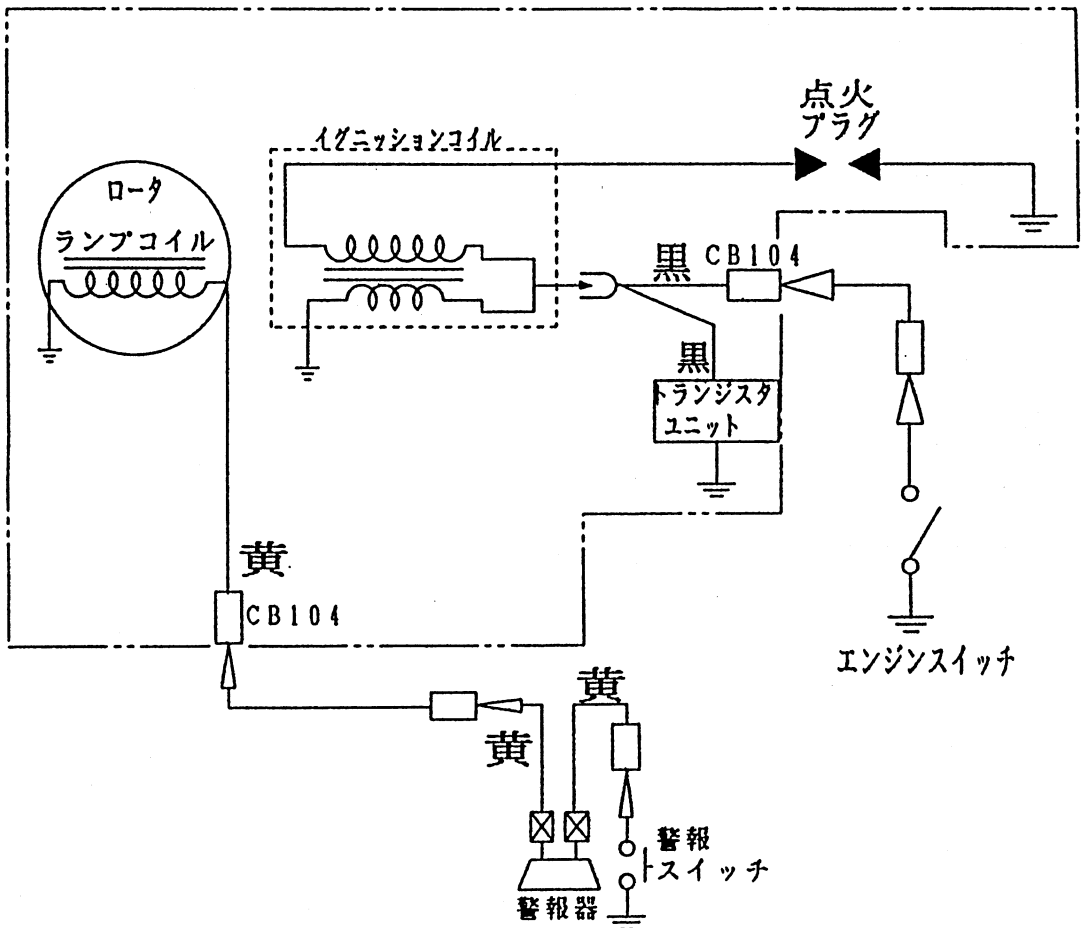
No.	品 名	部品番号	備 考
13	点火プラグN11YC	160690-78030	(ガソリンエンジン仕様) フェデラルモーグル社
14	エアクリーナ エレメント	160790-12540	(ガソリンエンジン仕様)
15	〃	104300-12960	(水冷ディーゼルエンジン仕様)
16	ブレーキシュー	1E6140-52240	2本　走行ミッションブレーキ用
17	〃	7N1280-25010	ウインチミッションブレーキ用
18	クローラ	1N1302-37000	
19	バッテリSG30A19R	1N1286-51090	(ガソリンエンジン仕様)
20	〃　40B19R	1N1413-51040	(水冷ディーゼルエンジン仕様)

付属品

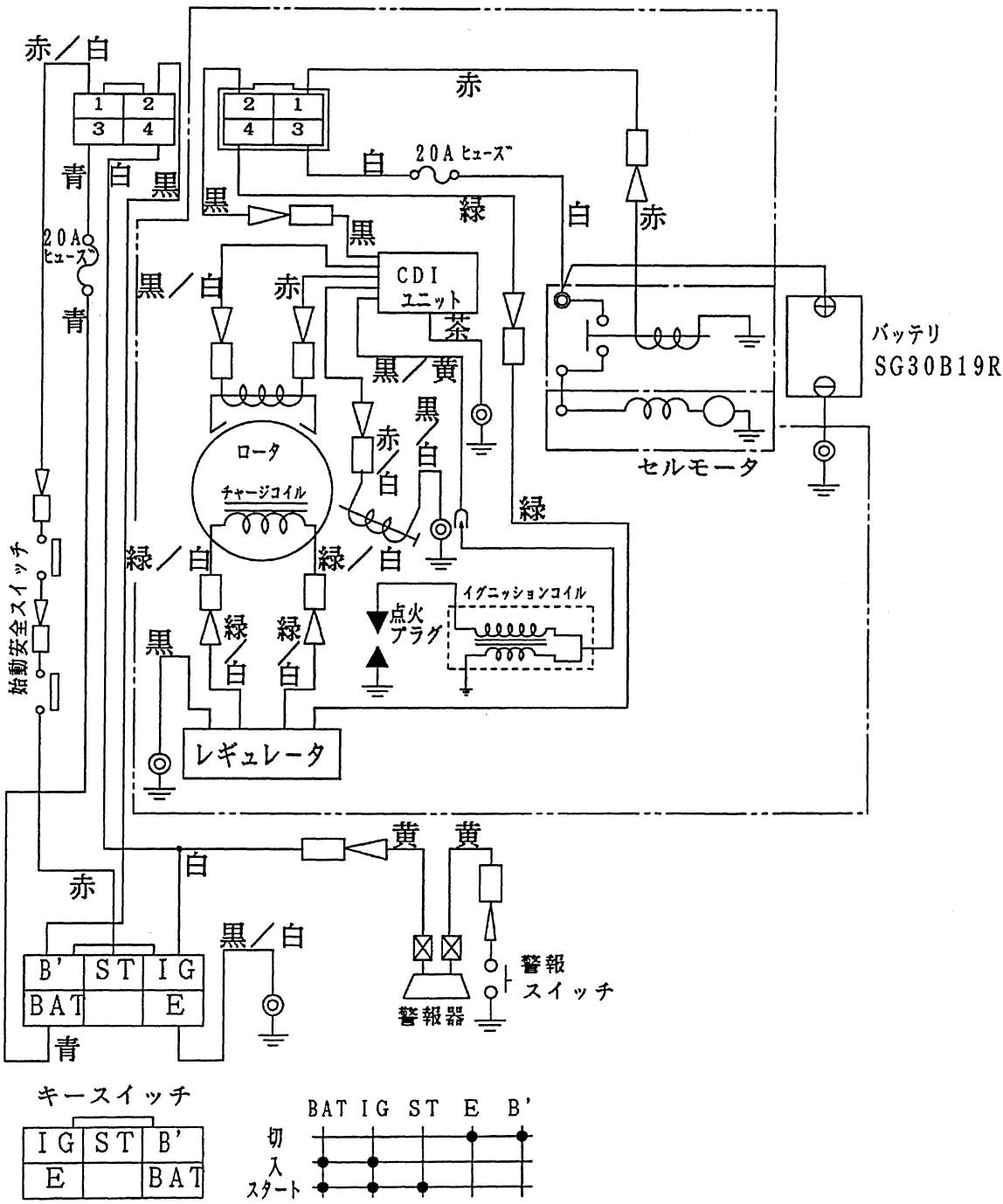
No.	品 名	個数	部品番号	備　考
1	グリースニップル A-MT6×1	2	24761-060000	
2	取扱説明書	1	1N1302-95040	
3	保証書	〃		

配線図

ガソリンエンジン・リコイルスタータ仕様(GA220SCK仕様)
SC10W2



ガソリンエンジン・セルスタータ仕様(GA280SECK仕様)
SC10W2-E



水冷ディーゼルエンジン仕様(NFAD8ECK仕様)
SCD10W2-E